クローラ型運搬車

取 扱 説 明 書

XG850

ご使用の前に必ずお読み下さい。

はじめに

●このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。

●この取扱説明書は、本製品を安全にご使用していただくため、是非守っていただきたい安全作業に関する基本的事項と最適な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。

●本製品を初めて運転されるときはもちろん、日頃の運転・取扱いの前にも取扱説明書を熟読され、十分理解の上、安全・確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるよう大切に保管してください。説明書を紛失又は損傷された場合は、速やかにお買いあげ先へご注文ください。

●本製品を貸与又は譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分に理解していただき、この取扱説明書をクローラ型運搬車に添付してお渡しください。

●なお、品質、性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及びイラスト・写真などの一部が、本製品と一致しない場合もありますので、ご了承ください。

●もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買いあげ先へご相談ください。

●取扱説明書の中の▲重要表示は、次のような安全上、取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守ってください。

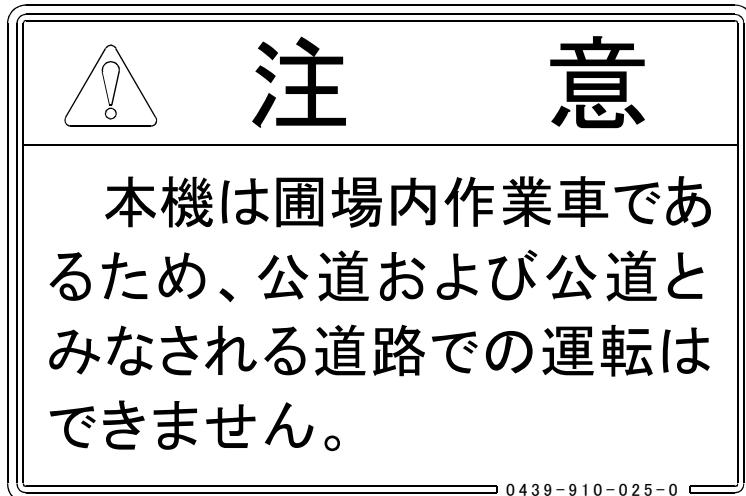



表　示	重　　要　　度
▲危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しております。
▲警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しております。
▲注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しております。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。

●この取扱説明書では、同シリーズの各型式・区分の運搬車について併記してあります。
お買いあげいただいた型式を車両に貼付してある銘板で確認され、該当する項目をよくお読みください。

型　式	搭載エンジン仕様	荷台タイプ
ＸＧ８５０Ｅ	種　　　類：空冷４サイクル傾斜型 OHV ガソリンエンジン 型　　　式：カワサキ FE250G-SX 最 大 出 力：6.0KW(8.2PS) 最大トルク：16.5N･m	平荷台
ＸＧ８５０ＤＥ		油圧ダンプ

⚠注意 ●本製品は圃場内作業車ですので、公道及び公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故及び違反につきましては、責任を負いかねます。

注　　意

本機は圃場内作業車であるため、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。

0439-910-025-0

目　次

重要安全ポイントについて

１．運行前には、
必ず始動点検を行ない、特に重要な保安部品（ブレーキ等）は、
確実に整備します。

２．運転・作業をするときは、
安全カバー類が取り付けられていることを確認します。

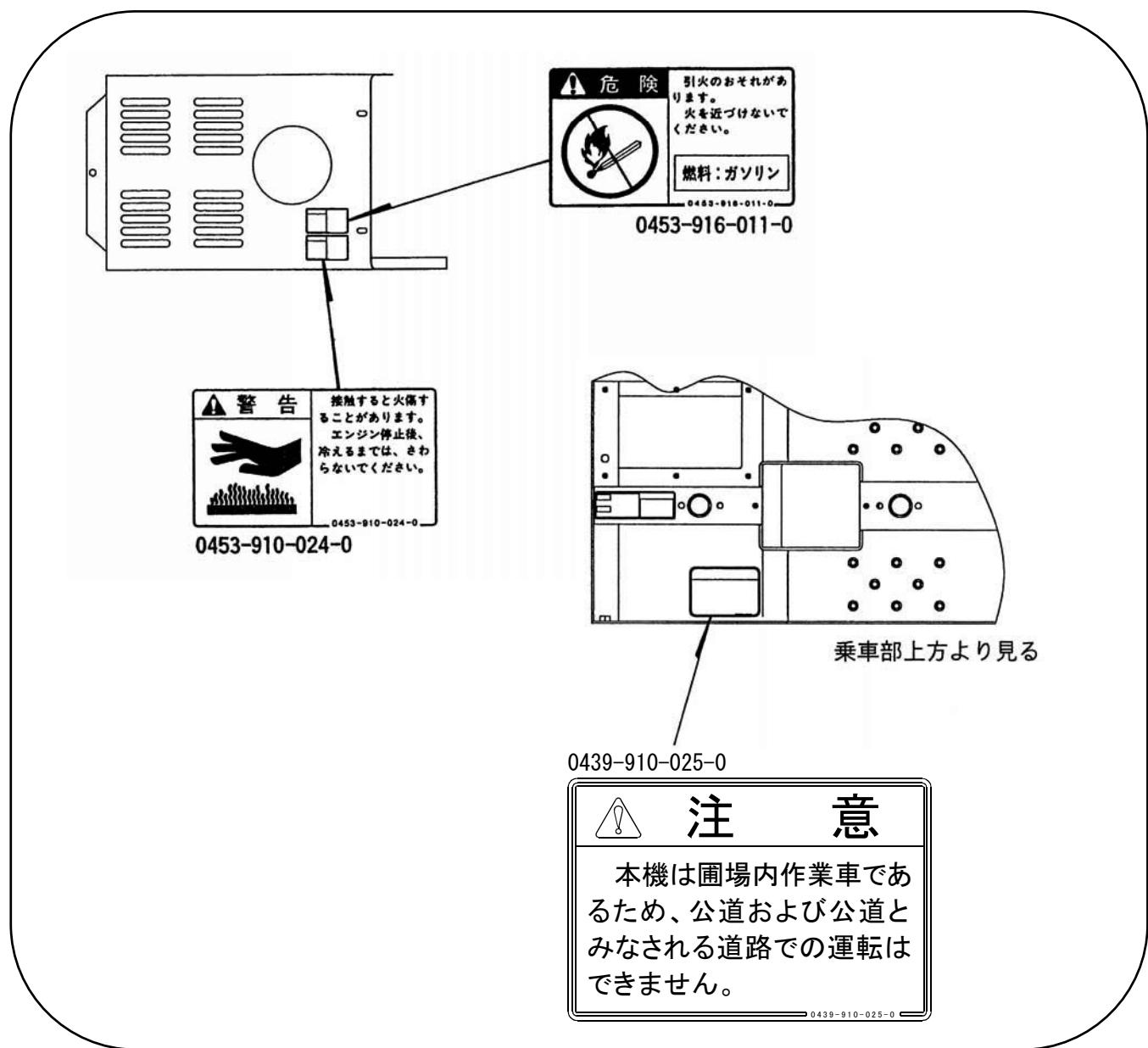
３．路肩・軟弱地で使用するときは、
転落・転倒しないように十分注意します。

４．坂道で使用するときは、
急旋回・Ｕターンは避けます。

５．機械の清掃・点検および調整をするときは、
必ずエンジンを止め、機械の停止を待ちます。

６．補助者と共同作業を行なうときは、
合図をし、安全を確認します。

７．リフトまたはダンプ作業を行なうときは、
周囲の安全を確認します。

８．荷物を積むときは、
積載重量を守りバランスよく、また荷動きしないよう
しっかりとロープ等で固定します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは
上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上是非守っていただきたい
事項に ⚠重要 を付して説明の都度取りあげております。
よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願い致します。

安全表示ラベルの注意

■本機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。
必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。

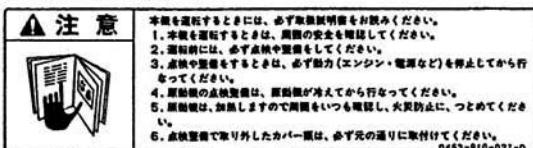
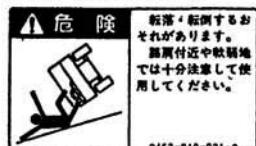
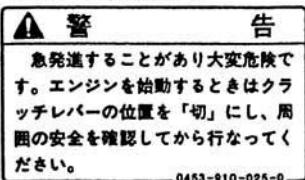
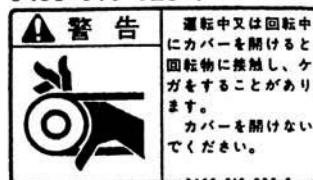
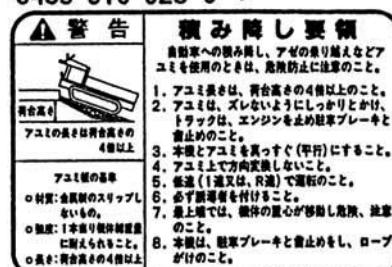
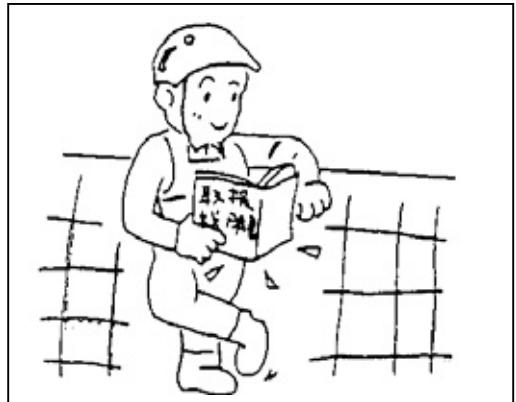
■安全表示ラベルが破損したり、なくなったり、読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。

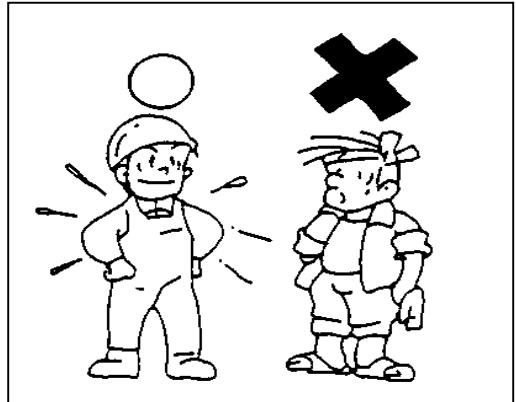
■泥等が付いた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。

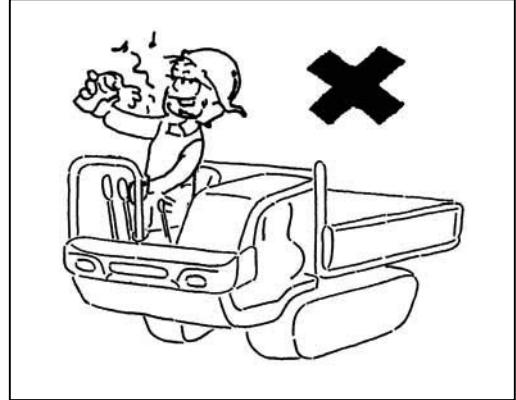
■安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルもお買いあげ先へ注文してください。

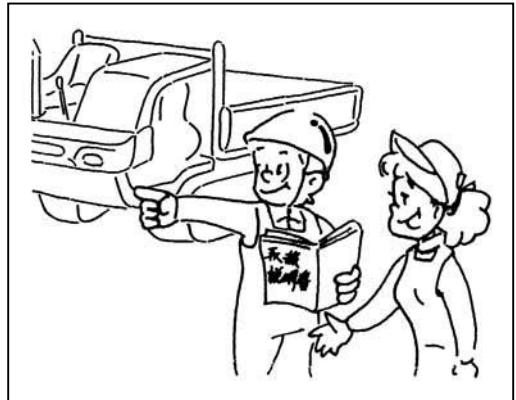
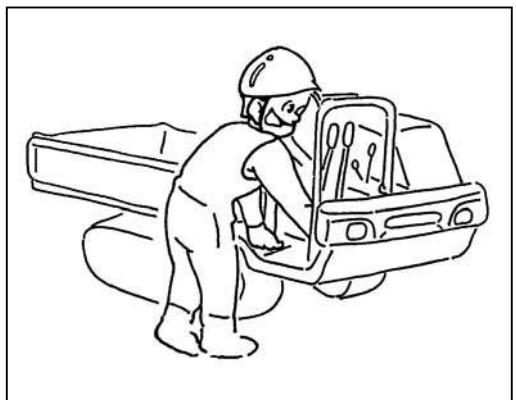
■マーク（安全表示ラベル等）には、洗車時に直接圧力水をかけないでください。

安全表示ラベル貼付位置

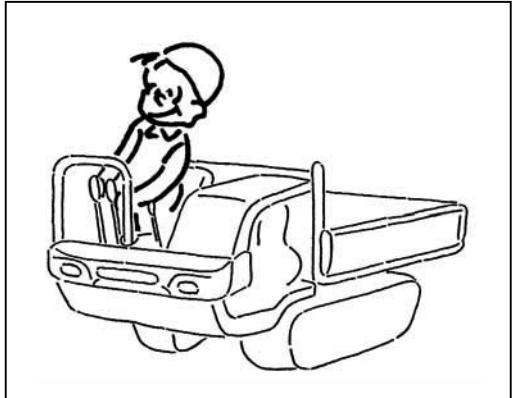
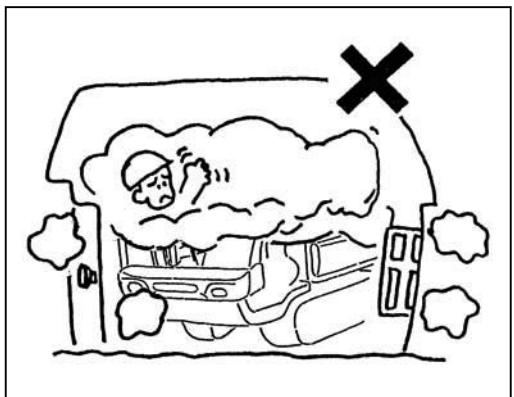
安全表示ラベル貼付位置

安全のポイント

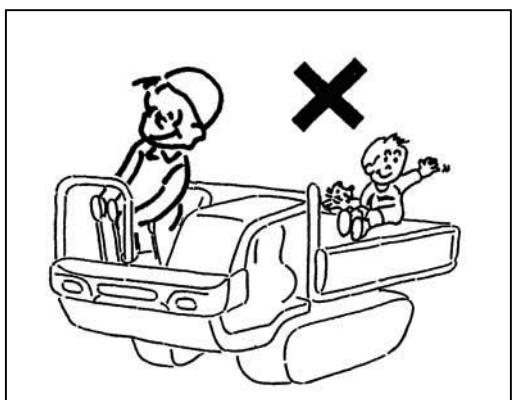
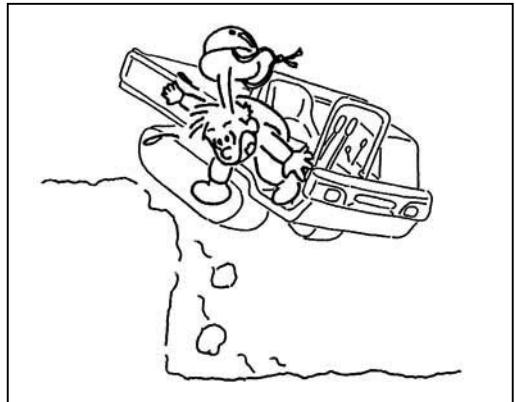
安全な作業をするために

本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行ってください。

■運転者の条件

(1)　この「取扱説明書」をよく読むことからはじめてください。これが安全作業の第一歩です。

(2)　服装は作業に適したものを着てください。
服装が悪いと、衣服が回転部に巻き込まれたり、靴がスリップしたりして大変危険です。
　ヘルメットや適正な保護具も着用してください。

(3)　飲酒時や過労ぎみの時、また妊娠している人、子供など未熟練者は絶対に作業をしてはいけません。作業を行うと、思わぬ事故を引き起こします。作業をする時は、必ず心身とも健康な状態で行ってください。

■作業を開始する前に

(1)　作業する前に、本書の「取扱説明書」を参考に必要な点検を必ず行ってください。点検を怠るとブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れなかったり走行中や作業中の思わぬ事故につながります。

(2)　安全カバー類が外されたままになっていないかを確認しましょう。外されたままエンジンをかけたり運転作業を行うと危険な部分が露出して大変危険です。

(3)　燃料の補給や潤滑油の給油・交換をするときは、必ずエンジンが停止した状態で行い、くわえタバコなどの火気は厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。

■エンジンの始動と発進は

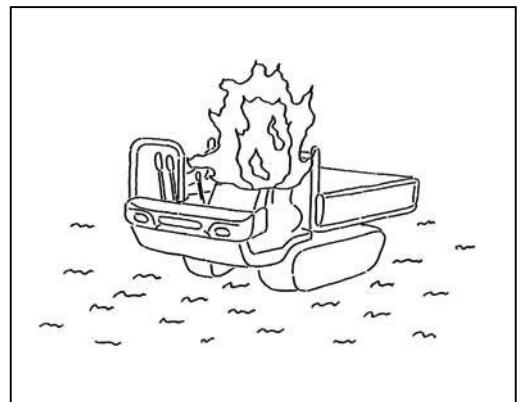
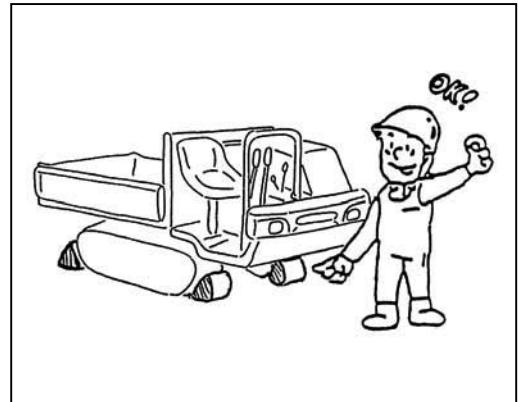
(1)　エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、走行クラッチレバーを「切」位置にして行ってください。
（走行クラッチレバーが「高速」位置、および「低速」位置では、エンジンは始動しません。また発進時は、万一に備えて変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。）

(2)　室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。換気が悪いと、排ガス中毒を起こし大変危険です。

■走行するときは

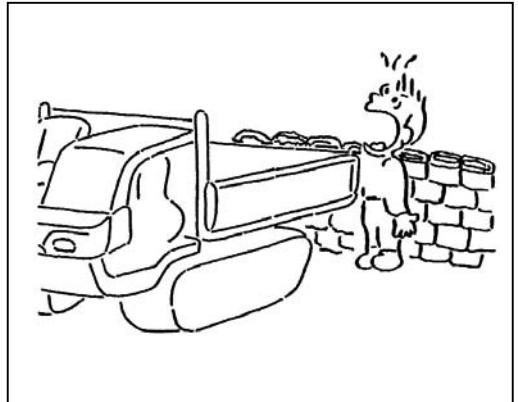
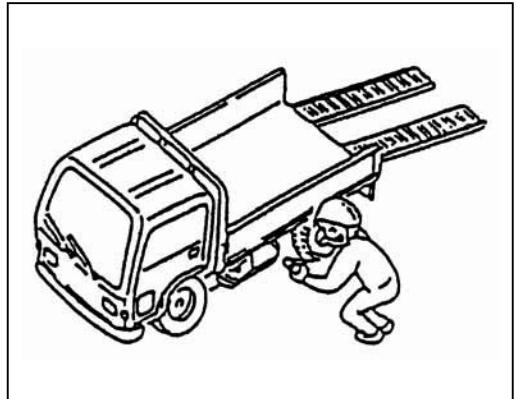
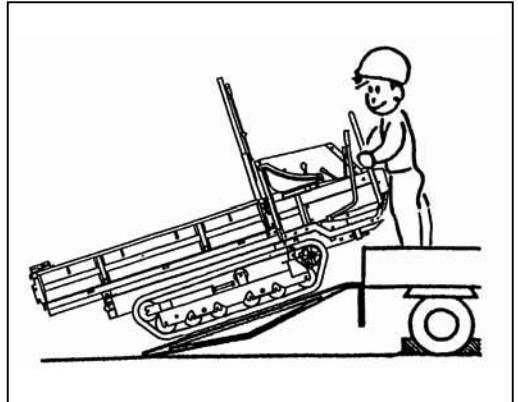
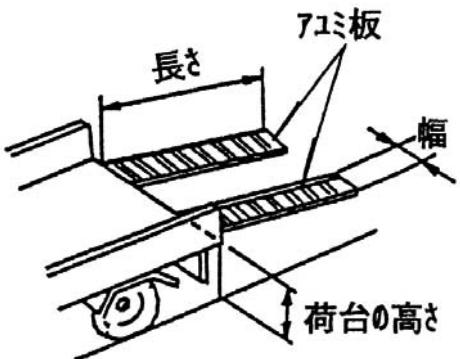
(1)　いかなる場合も、荷台などに人や動物を乗せないでください。作業の際はもちろん、走行中の急旋回、重心の移動等により大変危険です。

(2)　軟弱地盤・側溝のある道や両側が傾斜している道などで走行するときは、速度を落して十分に注意して走行してください。路肩が崩れて転倒したりして大変危険です。

(3)　傾斜地は、微速または低速で、まっすぐに昇り降りしてください。斜面をよこぎったり、旋回をすると転倒する恐れがあります。特に下り坂では、曲がろうとしてサイドクラッチレバーを切った場合、切った側が流され、思う方向と逆に進むことがあり大変危険です。

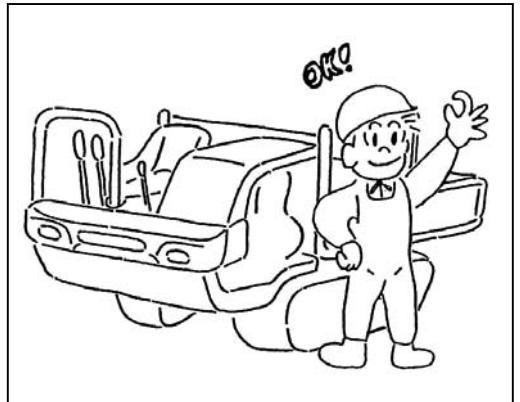
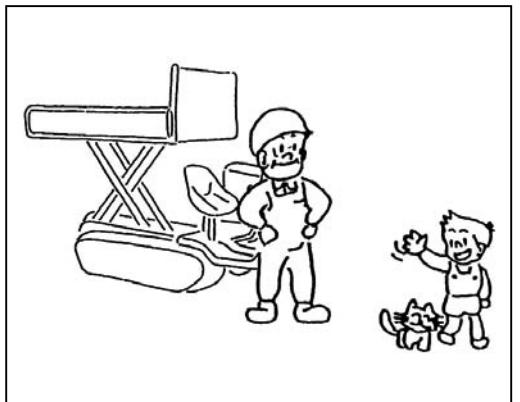
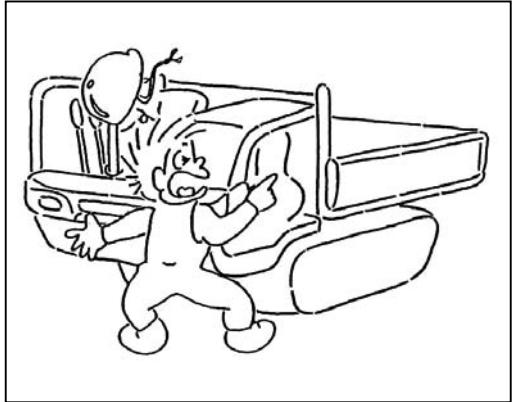
(4)　坂道では、低速でゆっくりと、また下るときは変速レバーを「１速」位置にし、エンジンブレーキを効かせ、走行クラッチレバーを「切」位置にしたり、変速レバーを「中立」位置にしないでください。

車両が加速し、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。また、ブレーキの多用は、ブレーキを傷めるとともに、スリップやブレーキの効きが悪くなる原因となり、大変危険です。

(5)　凸凹の激しい道路での高速走行はしないでください。路面状態、積載状態に応じた安全な速度で走行してください。これを怠ると、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。

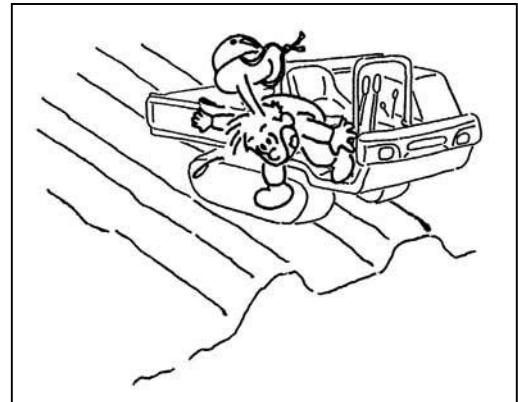
(6)　車両を草やワラなど可燃物の上に止めないでください。排気管の熱や、排気ガスなどにより可燃物に着火し、火災の原因となる恐れがあります。

(7)　車両から離れるときは、エンジンを停止し、キースイッチを抜き取り、確実に駐車ブレーキをかけ、走行クラッチレバーを「切」位置にし、変速レバーを「１速」位置にして、歯止め（車止め）をしてください。また、駐車するところは、平坦で広い地面の硬い安全な場所を選んでください。車両が自然にに動きだしたりして大変危険です。

(8)　わき見運転や無理な姿勢で運転をしてはいけません。進行方向、特に後進時は、周囲の障害物に注意してください。

■トラックへの積込み・積降ろし

(1)　積込むトラックは、エンジンを止めて、変速レバーを「１速」または「Ｒ速」位置にして、駐車ブレーキをかけ歯止め（車止め）をしてください。これを怠ると積込み・積降ろし時にトラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

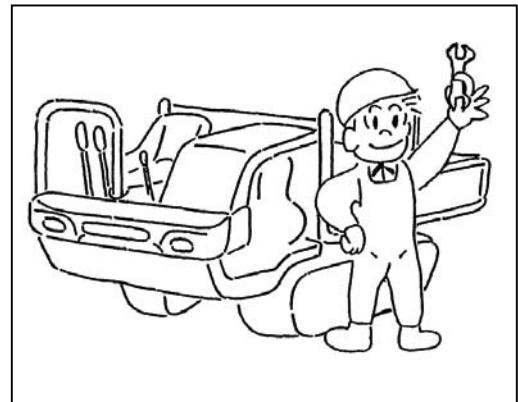
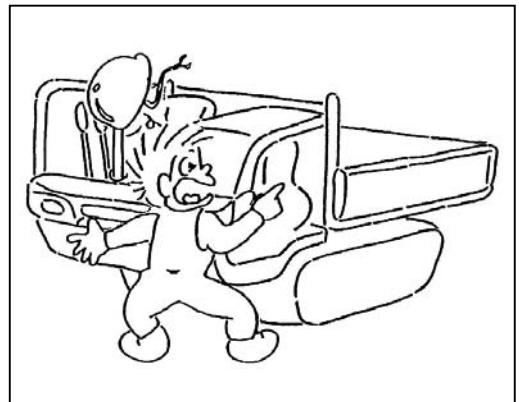
(2)　積込み・積降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定め、微速にて行ってください。アユミ板上での方向修正は転落事故の原因となり大変危険です。

＜アユミ板の基準＞
●長　さ…車の荷台の高さの４倍以上 ●　幅　…本機クローラの１．５倍以上 ●強　度…車体総重量の１．５倍以上（１本あたり） ●すべらないよう処理されていること。

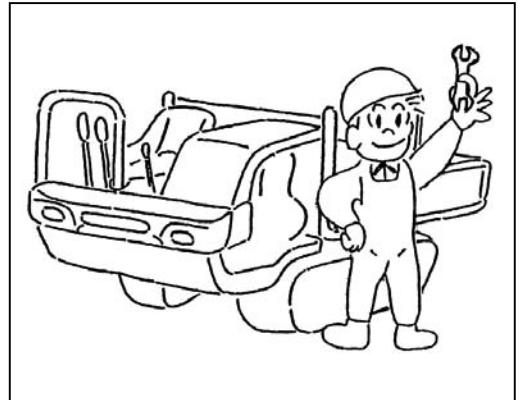
(3)　万一、途中でエンストした場合は、素早く駐車ブレーキをかけ、走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。その後、徐々に駐車ブレーキをゆるめ、一端地面まで降ろし、エンジン始動方法に従い、改めてエンジンを始動させてから行ってください。

(4)　トラック等で運搬するときは、本機の駐車ブレーキをかけ、歯止め（車止め）をし、必ずロープ等でトラックの荷台に固定してください。また運搬中は不必要な急発進・急旋回・急ハンドルをしてはいけません。機械が移動して大変危険です。

■作業中は

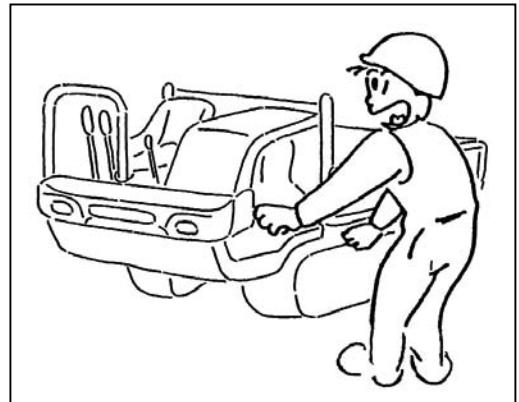
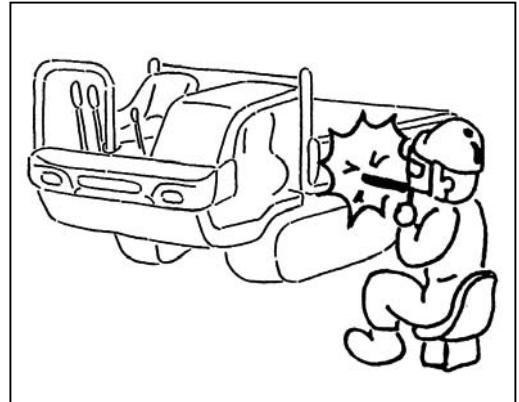
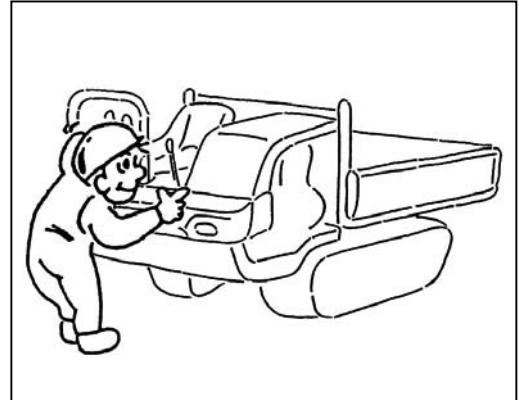
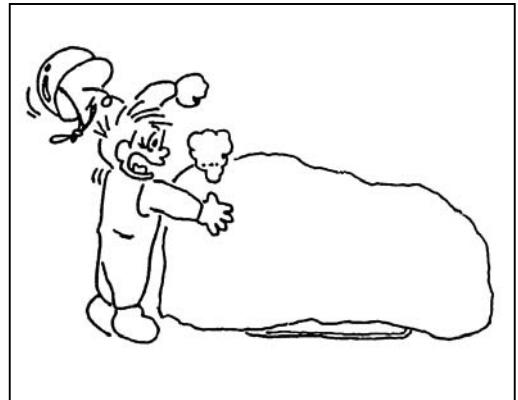
(1)　積載制限を守ってください。過積載は、操作ミスを引き起こし大変危険です。

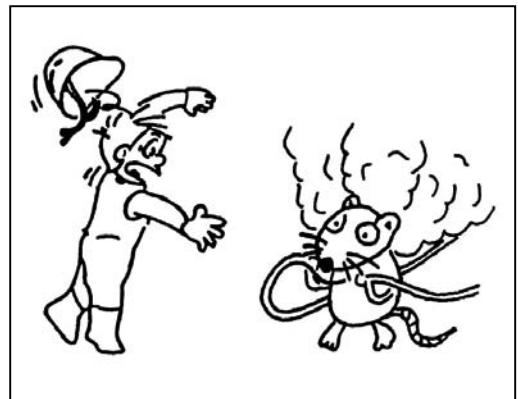
(2)　ダンプ作業を開始するときは、必ず周囲の安全を確認し、作業中は作業者以外の人、特に子供を近づけないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。

(3)　回転部、エンジン・マフラー等の過熱部、バッテリ端子等の通電部など危険な箇所には、手を触れないようにしてください。傷害事故の原因となり大変危険です。

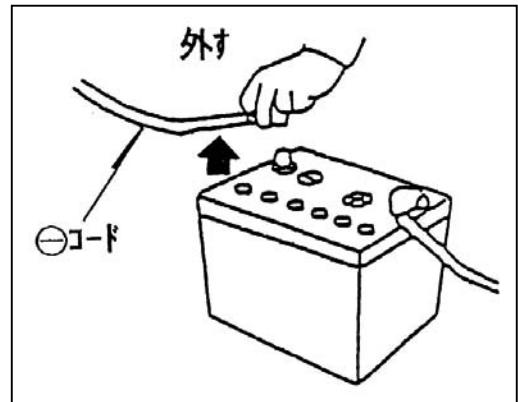
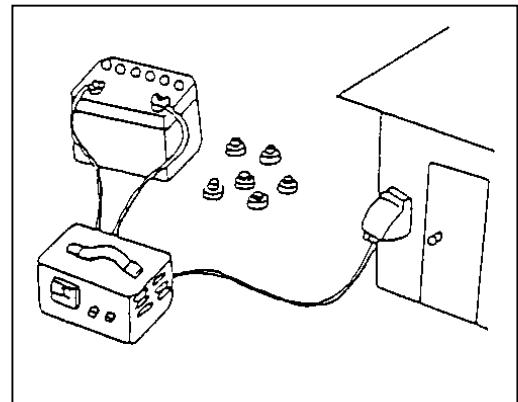
(4)　溝の横断や畦越えをするときは必ずアユミ板を使用し、微速にて溝・畦と直角にゆっくりと走行してください。これらを怠ると、衝撃で機械を破損させたり、脱輪やスリップ等により転倒し、傷害事故をおこす恐れがあり大変危険です。

(5)　荷を積むときは、重心が車両の中央になるよう、また重心が高くならないようにしましょう。重心が高くなったり、かたよると転倒の原因となり大変危険です。

■点検整備は

(1)　点検整備をするときは、明るく平坦な広い場所で行ってください。これを怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

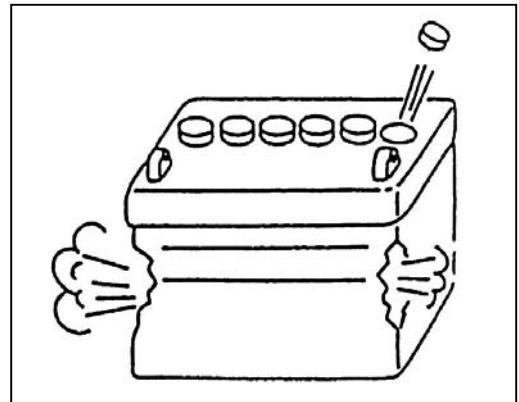
(2)　エンジンを切ってすぐに、点検整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が完全に冷えてから行ってください。怠ると、火傷などの原因となります。

(3)　機械の掃除・点検整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。思わぬ事故をまねく恐れがあります。

　また、荷台をダンプさせての点検整備の際は、十分に強度のある木材等で荷台降下防止策を施してください。怠ると急に荷台が降下し、はさまれたりして大変危険です。

(4)　適正な工具を正しく使用して行ってください。間に合わせの工具で行うと、整備中の傷害事故や、整備不良による思わぬ事故を引き起こし大変危険です。

(5)　点検整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取付てください。回転部や過熱部がむきだしになり、傷害事故の原因となり大変危険です。

(6)　機械の改造は絶対にしないでください。機械の故障や事故の原因になり大変危険です。

■保管・格納は

(1)　動力を停止し、機体に付着したドロやゴミ等をきれいに取り除いてください。特にマフラーなどエンジン周辺のゴミは火災の原因となります。必ず取り除いてください。

(2)　子供などが容易にさわれないようにカバーをするか、格納庫に入れて保管してください。カバー類をかける場合は、高温部が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類をかけると火災の原因となります。

(3)　長期格納をするときは、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取りましょう。燃料が変質するばかりでなく、引火などで火災の原因となり大変危険です。

(4)　長期格納をするときは、バッテリケーブルを外してください。外しておかないと、ネズミ等がかじって、ケーブルがショートし、発火して火災の原因となり大変危険です。

■電装品の取扱い

(1)　電気配線の点検、および配線接続部の点検は必ずエンジンを停止し、キースイッチを切りバッテリーの ⊖ コードを外して行ってください。これを怠ると火花が飛んだり感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(2)　バッテリーを取扱う時は、ショートやスパークをさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよいところでバッテリーの補水キャップを外して行ってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

(3)　バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇毒物です。体や服につけないようにしてください。失明や火傷をすることがあり大変危険です。
もしついたときは、多量の水で洗ってください。なお、目に入った時は水洗い後、医師の治療を受けてください。

(4)　バッテリー液が下限以下になったまま使用を続けたり充電を行うと、容器内の各部位の劣化が進行促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（ 爆発 ）の原因となる恐れがあり大変危険です。

■ブースターケーブル使用時の注意事項

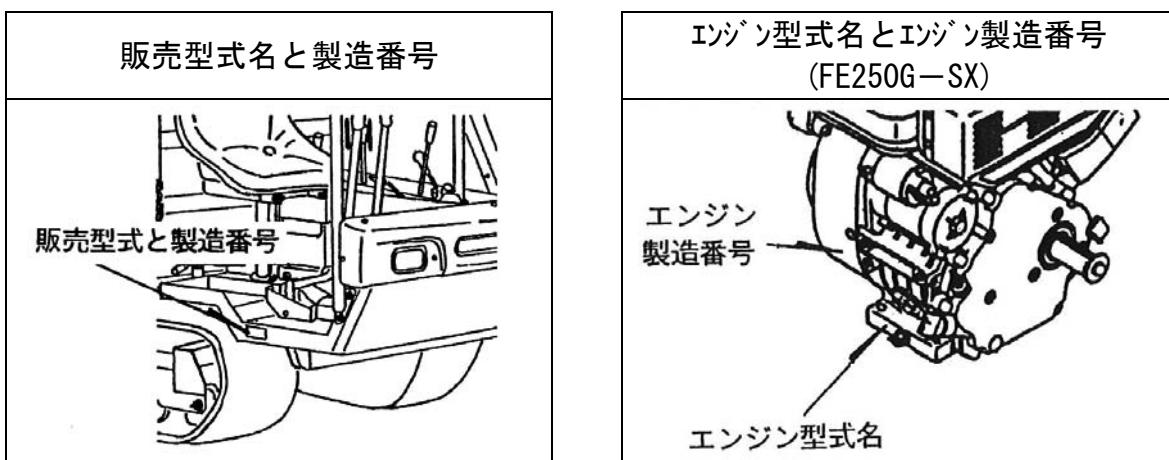
ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

(1)　バッテリーの補水キャップを取外してから接続してください。補水キャップが取外してあれば、万一引火しても爆発力は低下しますので、被害は少なくなります。

(2)　ブースターケーブル接続前には、エンジンを停止してください。これを怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(3)　ブースターケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。通電容量が小さすぎると、ブースターケーブルが熱をもったり、焼損したりして危険です。

保証とサービス

■新車の保証

この商品には、㈱アテックス保証書が添付されています。詳しくは、保証書をご覧ください。

■サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点、およびサービスに関するご用命は、お買いあげ先へお気軽にご相談ください。

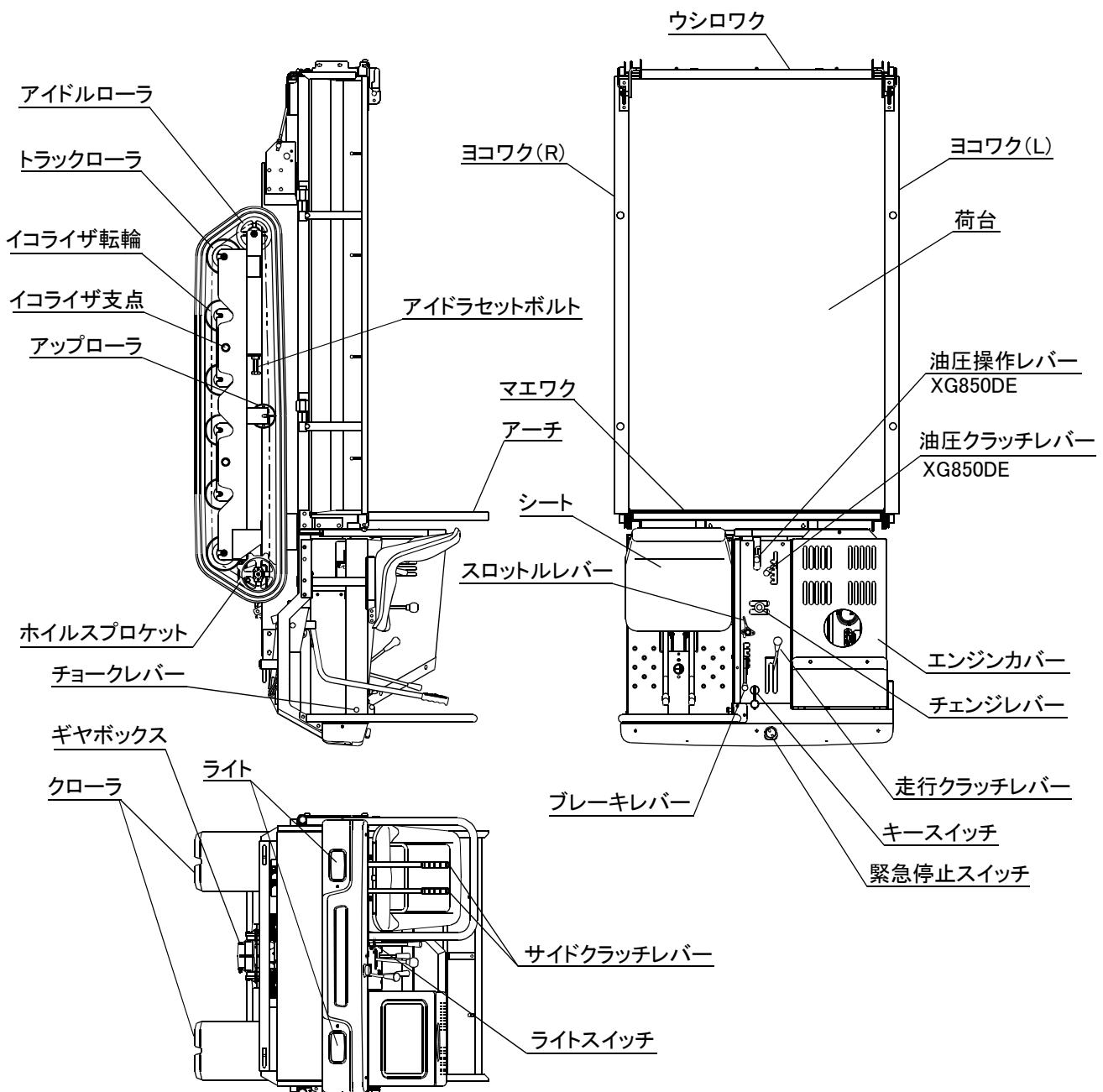
その際、

(1)　販売型式名と製造番号

(2)　エンジン型式名とエンジン製造番号

を併せてご連絡ください。

販売型式名と製造番号

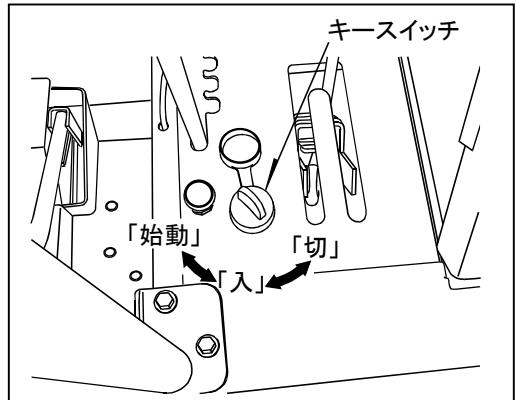
ｴﾝｼﾞﾝ型式名とｴﾝｼﾞﾝ製造番号
(FE250G－SX)

■補修用部品供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後７年といたします。
ただし、供給年限であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

各部の名称とはたらき

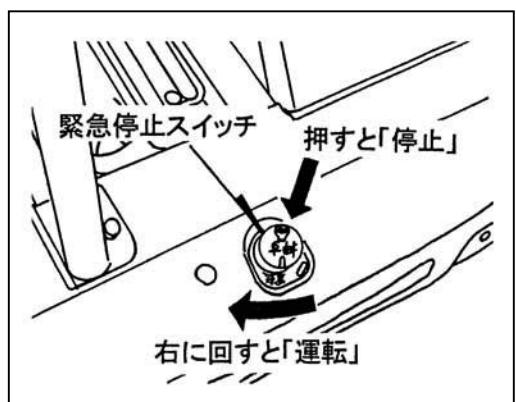
各部の名称

操作レバーおよびスイッチの名称とはたらき

■キースイッチ

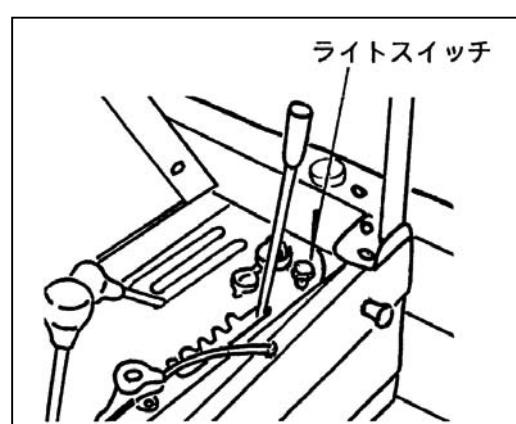
エンジンの始動・停止を行うスイッチです。

「切」　　位置……エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。

「入」　　位置……エンジン回転中の位置。

「始動」　位置……エンジンを始動させる位置。手を離せば自動的に「入」位置に戻ります。

※エンジンの始動・停止のしかたについては本書 27〜29 ページを参照してください。

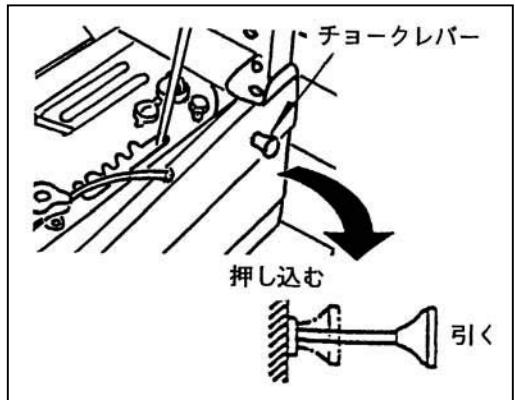
■緊急停止スイッチ

スイッチを押して右に回すと「運転」に入ります。「運転」の状態でスイッチを押すと「停止」になります。

●エンジンを始動する時は、緊急停止スイッチが「運転」位置にある事を確認してください。「停止」位置にあると、セルモータは回りますが、エンジンは始動しません。

●運転中等の緊急時は、緊急停止スイッチを押せばエンジンは停止し、作業装置なども停止しますが、そのままの状態では機体にブレーキがかかっていませんので、すみやかにブレーキレバーを操作し、駐車ブレーキをかけてください。

■ライトスイッチ

エンジンの始動・停止に関係なく、キースイッチが「入」位置の時に、ヘッドランプの点灯・消灯ができます。

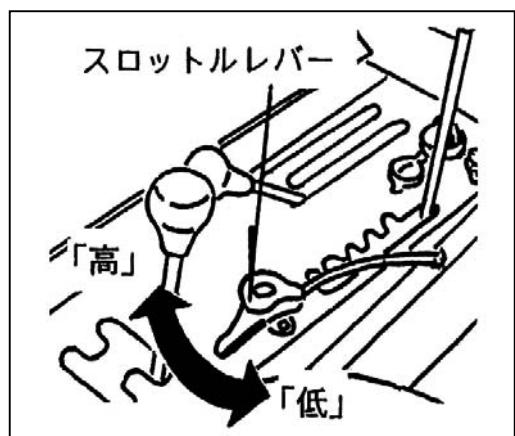
ライトスイッチを引き上げると点灯、押し込むと消灯します。

●エンジンを停止した状態で、長時間ヘッドライトを点灯すると、バッテリあがりの原因となります。

■チョークレバー

低温時等にエンジンの始動を容易にする為に使用します。

通常は、チョークレバーをいっぱいまで押し込んだ状態でエンジンの始動を行います。

低温時等エンジンの始動が困難な場合には、チョークレバーをいっぱいまで引いてエンジンの始動を行います。エンジンの始動後は、必ずチョークレバーを元の位置（いっぱいまで押し込んだ状態）まで戻してください。

※エンジン始動方法の詳細は、本書27・28ページを参照してください。

■スロットルレバー

エンジンの回転数を調節するレバーです。

低………エンジン回転数がアイドリング回転まで戻ります。

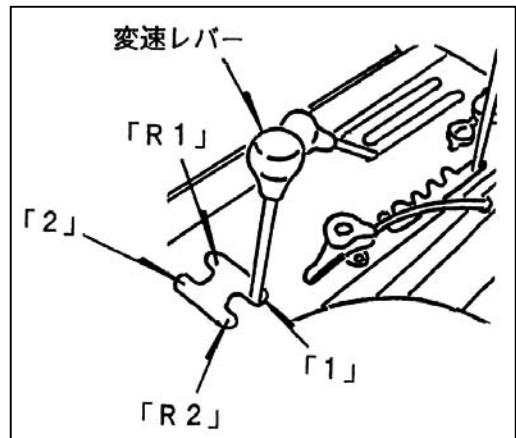
高………エンジン回転数が最高回転まで上がります。

エンジン回転数が最高の時に最大の馬力（パワー）を発生します。状況に応じて調節してください。

■ブレーキレバー

⚠注意 ●駐車時、停車時には必ず駐車ブレーキを確実にかけ、歯止め（車止め）をしてください。これを怠ると車両が自然に動き出したりして大変危険です。

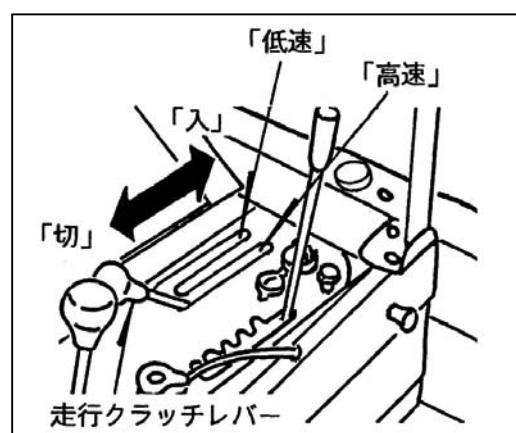
ブレーキレバーを手前に引くとブレーキがかかります。

また、ブレーキが効いた所でガイド溝にかけると、駐車ブレーキになります。

●駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキを傷めてしまいます。また、その時にサイドクラッチレバーを操作すると、片側旋回したまま戻らなくなる恐れがあります。走行中は駐車ブレーキを確実に切って（22ページ※印位置まで戻して）おいてください。

■変速レバー

・変速レバーの位置

1	前進１速
2	前進２速
R１	後進１速
R２	後進２速

前進２段・後進２段の変速ができます。変速は、クラッチレバーを「切」位置に戻し、車両を完全に停止させてから行ってください。

重要

●変速レバーの無理な操作はトランスミッション内部破損の原因となります。絶対にしないでください。

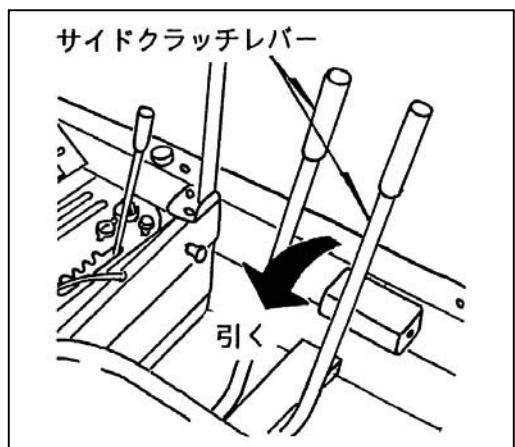
●走行中の変速レバー操作は絶対にしないでください。ギヤが破損し、決定的なダメージを受けてしまいます。

●変速レバーの操作をする時は、走行クラッチレバーを「切」位置にし、車両が完全に停止してから行ってください。

●変速レバーがスムーズに切換できない場合は、走行クラッチレバーの「入」・「切」操作を数回繰り返してから、再度変速レバーを操作してください。

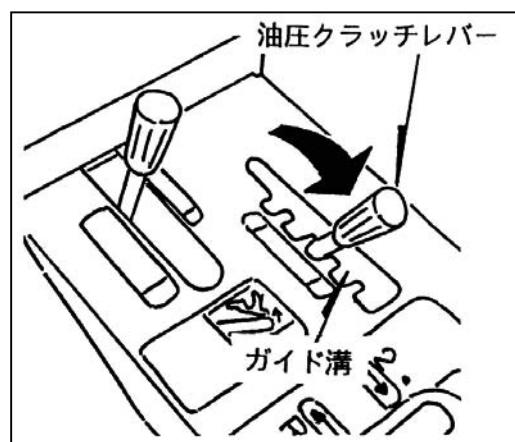
■走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを「高速」もしくは「低速」側へ入れると、エンジンの回転がベルトによりトランスミッションへ伝達されます。

変速レバーとの組み合わせにより、前進４段・後進４段の変速ができます。路面状態・積載量等の条件に合った走行位置を選んで走行してください。

■サイドクラッチレバー

旋回側のサイドクラッチレバーを手前に引くと、旋回します。

旋回は十分に速度を落として行ってください。また、積荷が重くなると、旋回時の負荷や操作荷重が大きくなりますので、注意してください。

また、緊急時には、両方のサイドクラッチレバーを同時に引くとブレーキがかかり、車両が停止します。

重要 ●本機のサイドクラッチ部はブレーキを併用しています。旋回時にサイドクラッチレバーの引き加減で旋回半径が変わりますが、サイドクラッチレバーを引ききらずにブレーキを滑らすように使用すると、ブレーキシューの寿命が極端に短くなります。

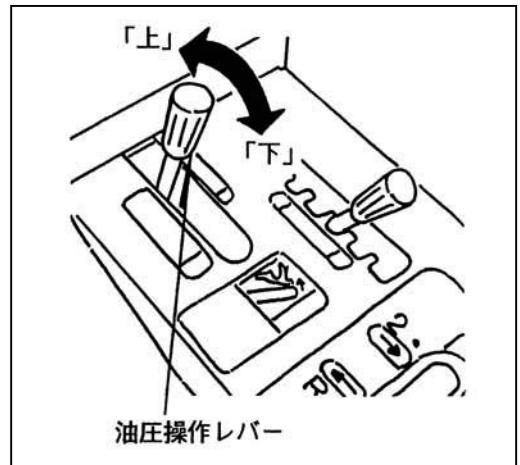
■油圧クラッチレバー(XG850DE)

エンジンの回転を油圧装置に伝達する為のレバーです。

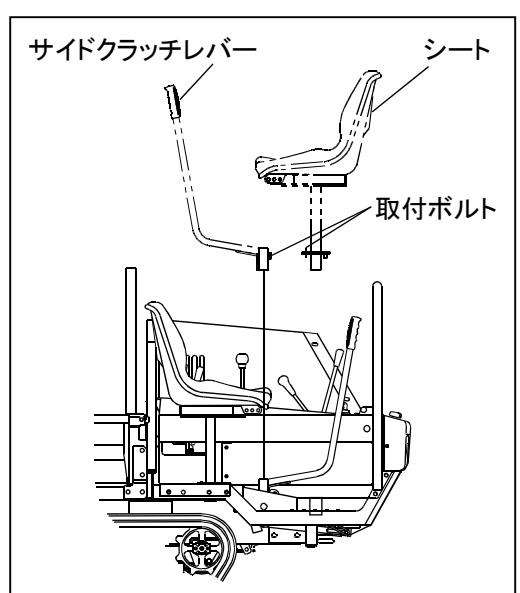
油圧クラッチレバーを車体前方へ向かって押し、テンションが効いた状態でガイド溝にかけるとエンジン回転が伝達されます。通常は常時この状態としておきます。

●油圧クラッチレバーが「切」の状態だと、エンジンの回転が油圧装置に伝達されず、ダンプ作業ができません。

■油圧操作レバー(XG850DE)

⚠危険
●荷台のダンプ操作をする場合は、必ず車両を停止させ、確実に駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
●荷台が下降し、はさまれるおそれがあります。手や足を荷台部へ入れないでください。

⚠警告
●走行中ダンプ操作は、油圧装置の破損につながるばかりでなく操作の誤りを引きおこし大変危険です。絶対にしないでください。

⚠注意 ●ダンプ操作を行う場合は、上昇、下降のいずれの場合にも、必ずエンジンをかけた状態で行ってください。エンジンをかけないで荷台を下降させると、シリンダー内が真空となり、スムーズにダンプ作業ができなくなります。

エンジンをかけた状態で、油圧操作レバーを「上」・「下」位置へ倒すと「ダンプ上昇」・「ダンプ下降」します。

重要 ●荷台下降状態から、油圧操作レバーで荷台を上昇させても、リリーフ弁が作動（「ピー」という音がでます。）して、荷台が上昇しない場合は積み過ぎですから、積荷を減してください。また、２０秒以上連続でリリーフ弁を作動させないでください。リリーフ弁が作動したら速やかに油圧操作レバーを「中立」位置に戻してください。油圧ポンプの破損につながります。
●周囲の安全を確認して操作してください。
●足場の悪い所や、傾斜地での操作は避けてください。

■シート

本機はシート、およびサイドクラッチレバーの取付位置を変更する事で、乗車時通常の前向き運転から、逆の後向き運転を行う事が可能です。

右図の様に、それぞれ取付ボルトを外し、所定の位置へ組み換え、再度取付ボルトにて確実に固定してください。

運転前の準備

運転前の点検について

> **⚠警告**　●必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、荷台をダンプさせた時は、十分に強度のある木材等で荷台落下防止策を施してから行ってください。怠ると、手や衣服が巻き込まれたり、挟まれたりして大変危険です。

■始業点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。始業点検は毎日かかさず行ってください。

点検は次の順序で実施してください。

(1)　前日、異常のあった箇所

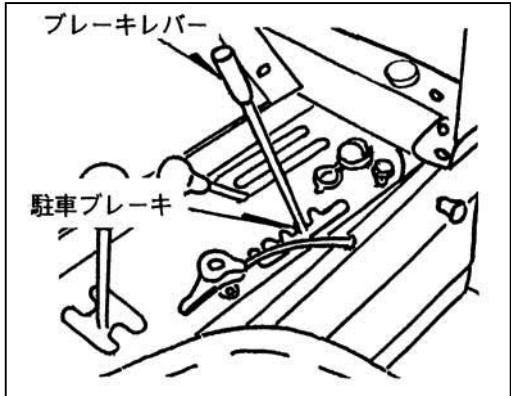
(2)　車両を確認して
- ●エンジンオイルの量、および汚れ…… 40 ページ
- ●燃料フィルタの水、沈殿物の点検…… 40 ページ
- ●ギヤボックスオイルの量、および汚れ…… 37・38 ページ
- ●バッテリ液の量…… 42・43 ページ
- ●走行ベルトの張り具合、損傷…… 44 ページ
- ●クローラの張り具合、損傷…… 48 ページ
- ●エアクリーナの清掃…… エンジン取扱説明書
- ●燃料は十分か、燃料キャップの締付け…… 39 ページ
- ●油圧ポンプのオイル量、および汚れ…… 39 ページ
- ●油圧系統の油漏れ
- ●車両各部の損傷、およびボルトやナットの緩み
- ●駐車ブレーキの作動…… 22・23・46 ページ

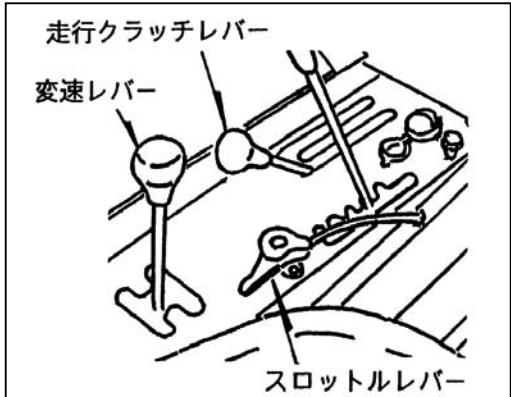
(3)　エンジンを始動して
- ●スロットルレバーの作動
- ●排気ガスの色、異常音

(4)　徐行しながら
- ●サイドクラッチレバーの重さ、および戻り…… 44～46 ページ
- ●走行クラッチレバーの作動…… 23・44 ページ
- ●走行部の異常音

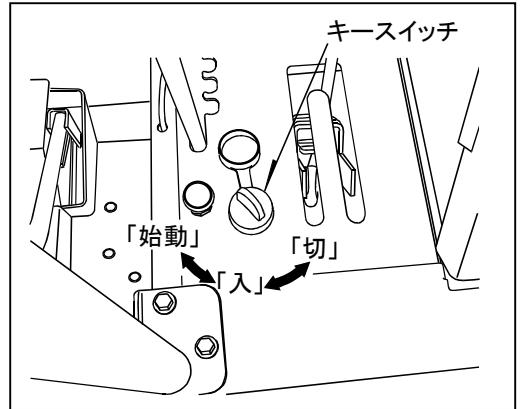
運転のしかた

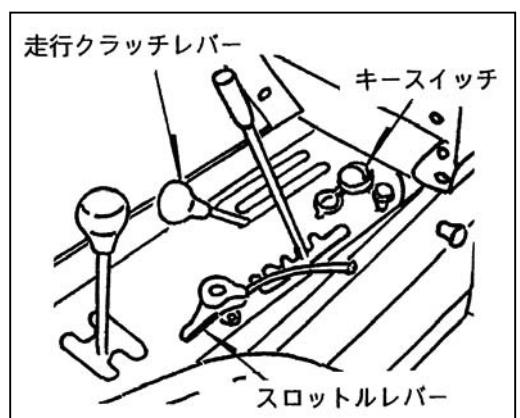
エンジンの始動と停止のしかた

⚠警告

●室内でエンジンを始動する時は、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。
●エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。これを怠ると、急発進したりして大変危険です。

■エンジンの始動

⚠注意

●暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけておいてください。これを怠ると、車両が自然に動き出し大変危険です。

(1)　座席に座り、駐車ブレーキがかかっていることを確認します。

(2)　走行クラッチレバーを「切」位置にします。
(3)　変速レバーを「中立」位置にします。
(4)　スロットルレバーを中回転以上に上げます。

(5)　キースイッチにキーを差し込み、キーを「始動」位置に回すとエンジンが始動します。エンジンが始動したら、ただちにキーから手を離してください。

重要 ●低温時は次の操作をすると、エンジンがかかりやすくなります。先ずチョークレバーを引き､キースイッチを回します。エンジンがかかったらチョ―クレバーを徐々に戻します。

●バッテリあがり等によりセル始動が出来ない場合は、キーを「入」位置に回し、スタータノブを引くことで始動させることが出来ます。但し、スタータロープの長さいっぱいまで引ききらないでください。また、引いたスタータノブはその位置で手放さず、ゆっくりとスムーズに元の位置に戻してください。

●本機は安全の為、始動安全装置を備えております。走行クラッチレバーを「切」位置にしないとエンジンがかからない構成となっています。

●１０秒間セルモータを回しても始動しないときは、３０秒程休んでから再操作してください。連続使用するとセルモータが破損します。

●エンジン運転中に、キーを「始動」位置にするとセルモータが破損します。絶対にキーを回さないでください。

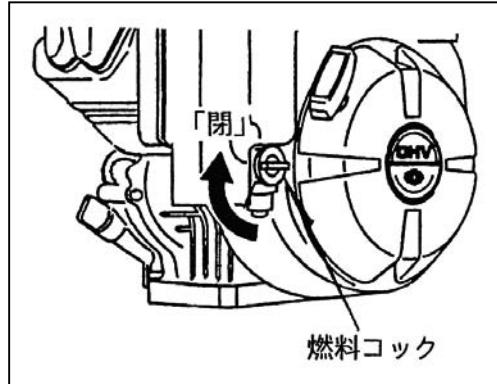
●エンジンの暖機運転をしないで、走行・作業を行うと、エンジンの寿命が短くなります。２～３分程度の暖機運転をしてください。

●エンジン始動時は、緊急停止スイッチが「運転」位置にある事を確認してください。「停止」位置にあると、セルモータは回りますが、エンジンは始動しません。（※ 21 ページ参照）

■エンジンの停止

(1)　走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキをかけます。

(2)　スロットルレバーを「低」位置にします。

(3)　キースイッチを「切」位置にするとエンジンが停止します。

⚠警告 ●接触すると火傷することがあります。エンジン停止後、冷えるまではさわらないでください。

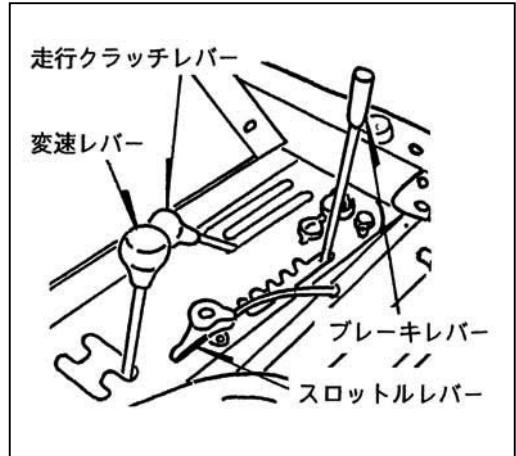
重要 ●万一、故障し、エンジンが停止しない場合は、燃料コックを閉じて燃料がなくなるまで放置してください。

●エンジンを高回転のまま停止しないでください。

●運転後は、アイドリング回転で１～２分間程、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。特に長時間運転後は、アイドリング回転で３～５分間程、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。

●エンジン停止後必ずキースイッチを「切」位置にしてください。キースイッチが「入」位置のままでは、バッテリの電流を消費し、バッテリあがりの原因となります。

走行のしかた

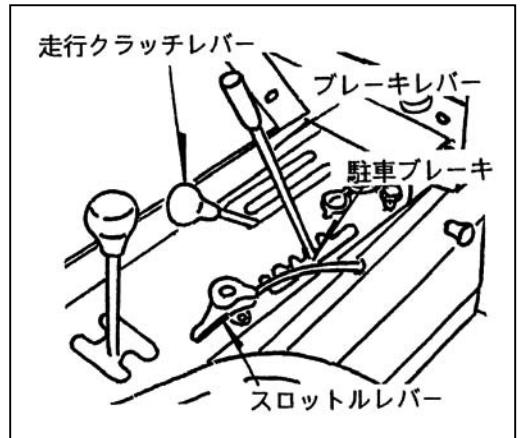
■発進のしかた

⚠危険 ●転落・転倒する恐れがあります。路肩付近や軟弱地では十分注意して使用してください。

●障害物に、はさまれる恐れがあります。進行方向の安全を常に確認してください。

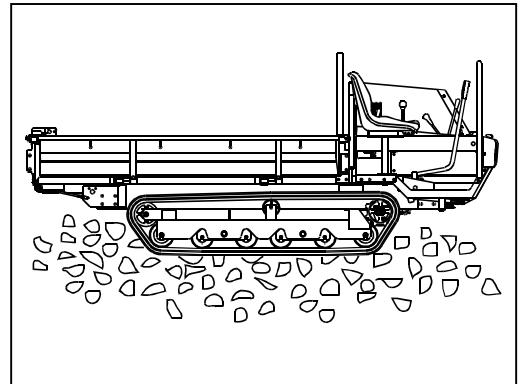
⚠警告 ●運転中、または回転中に回転部（ベルト・プーリ）に触れるとケガをします。触れないでください。

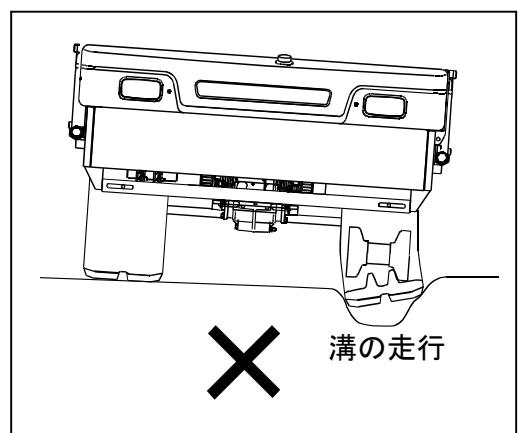
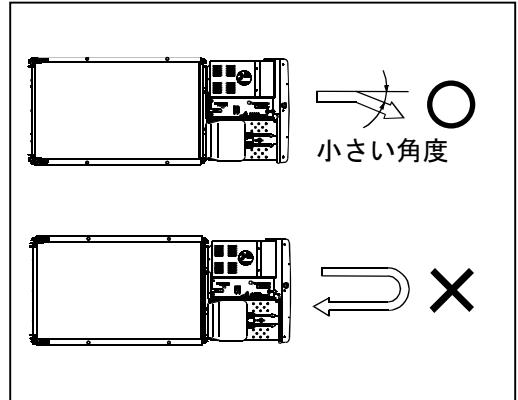
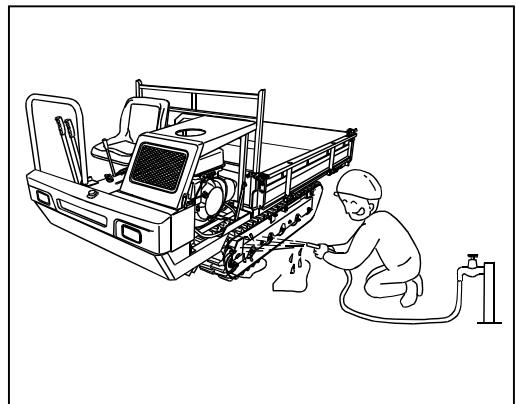
(1)　走行クラッチレバーが「切」位置になっていることを確認し、変速レバーを希望する変速位置に入れます。
(2)　ブレーキレバーを「切」位置にします。
(3)　走行クラッチレバーをゆっくりと「低速」もしくは「高速」位置へ入れると、スムーズに発進します。
(4)　スロットルレバーを操作して走行速度を調整します。

重要 ●駐車ブレーキを掛けたままの状態でもエンジン高回転・低速走行（トルクが高い）では、発進してしまいます。そのまま走行すると短時間でブレーキが効かなくなるばかりでなく、誤操作の原因となります。

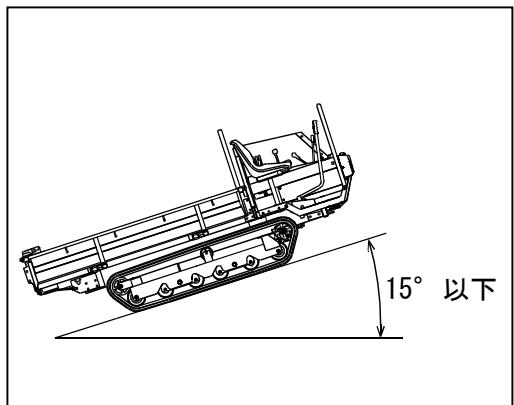
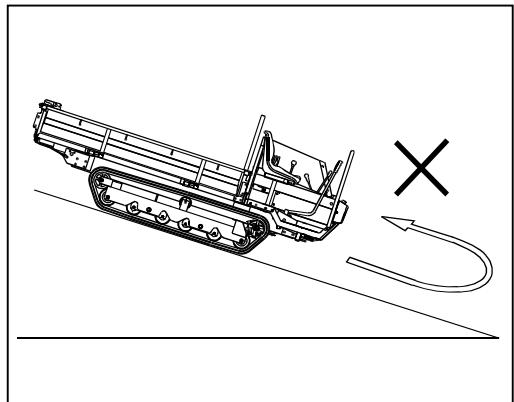
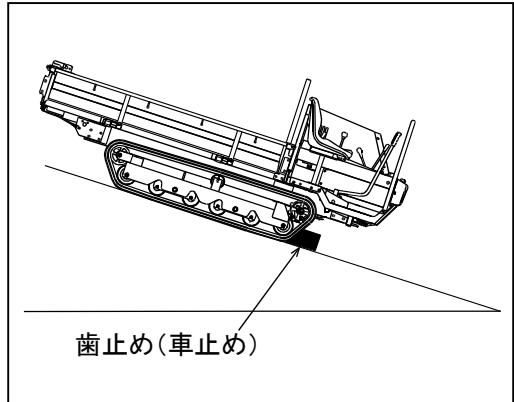
■旋回のしかた

旋回のしかたについては、24・31～35 ページをご参照ください。

■停車・駐車

⚠警告
●駐車・停車をするときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
●車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、キースイッチからキーを抜き取り、歯止め（車止め）をしてください。また止める所は、広い地面の硬い場所を選んでください。車両が動きだしたりして大変危険です。
●緊急時以外は、急ブレーキをかけたり、サイドクラッチレバー操作による急停止（24ページ参照）をしないでください。車体やギヤボックスに負担がかかり、車両の寿命に影響するばかりでなく、急な坂道では転倒の恐れがあります。
●車両を草やワラなど可燃物の上に止めないでください。排気管の熱や、排気ガスなどにより可燃物に着火し、火災の原因となる恐れがあります。

(1)　走行クラッチレバーを「切」位置にします。
(2)　ブレーキレバーにてブレーキをかけ、車両が完全に停止してから駐車ブレーキをかけます。
(3)　スロットルレバーを「低」位置にし、エンジン回転を下げます。
(4)　手順に従ってエンジンを停止させてください。
(28・29 ページ参照)

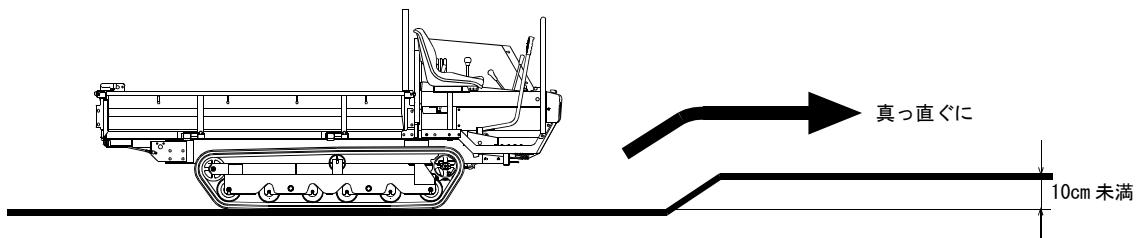
■ゴムクローラへの注意

重要 ●鉄道の路線敷のような、小石がたくさんある場所では、その場旋回のような小回りタ―ンをすると、スプロケットとクローラの間に石が入り、クローラ等が損傷する恐れがあります。

重要 ●山道など、雨水等の侵食による溝にそって走行し、サイドクラッチ操作するとクロ―ラが転輪から外れ脱輪する恐れがあります。
外れる際に大きな異音が発生します。
やむを得ず走行する場合は、サイドクラッチ操作をしないで微速走行にて、転輪からクロ―ラが外れないように細心の注意をしてください。

重要 ●砂利道のような、小石がたくさんある場所では、急ターンや半径の小さい蛇行運転は避け、直進や小さい角度の方向転換の運転をするよう、注意してください。

重要 ●湿田等の軟弱地で走行した後、スプロケットの中に泥やワラ等の異物が残っている場合には、水洗い等で取り除いてください。
●泥等が乾いて固まった場合には、走行中の土や泥がスプロケットから抜けなくなり、クローラ損傷の恐れがあります。
●使用後は、機械をきれいに掃除してください。

■坂道での運転

⚠危険 ●坂道走行中にエンジンが停止した場合には、ブレーキレバーを素早く引いて駐車ブレーキをかけてください。
●坂道でエンジン停止中に駐車ブレーキを解除すると、車両が自然に動きだし、大変危険です。

⚠注意 ●下り坂での旋回は、平地での旋回時よりも旋回半径が大きくなりますので十分注意してください。

(1)　本機は１５°以下の坂道で使用してください。

(2)　坂道では、必ず１速または、Ｒ１速で走行し、Ｕターンおよび変速は避けてください。

(3)　坂道で駐車する場合は、走行クラッチレバーを「切」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けて必ず歯止め（車止め）をしてください。

重要

- ●転倒の恐れがありますので、特に坂道では急な旋回をしないでください。
- ●下り坂で停止する場合は、スロットルレバーを「低」位置に戻し、走行クラッチレバーを「切」位置にし、素早くブレーキレバーにて駐車ブレーキを確実にかけてください。
- ●坂道の状況に応じた安全なスピードで走行してください。スピードを出しすぎると、思わぬ傷害事故を引き起こす恐れがあります。
- ●エンジンは２０°以上傾けて使用すると焼付くことがあります。

■その他走行時の注意

⚠注意 ●畦越えや、圃場への出入り等傾斜のきつい所や、段差の高い所（１０㎝以上）を走行する時は、必ずアユミ板を使用してください。

凹凸はできるだけ避けて、車両にショックがかからないようにしてください。もし凹凸越えをする場合は、必ず低速にし、真っ直ぐに乗り越えてください。

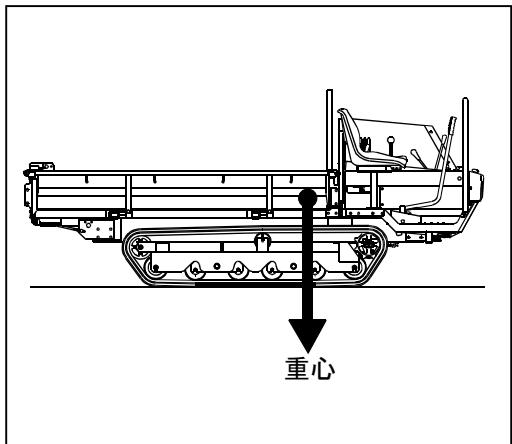
積載要領

■最大作業能力

●転倒の恐れがあります。最大作業能力以上は積載しないでください。

積載量は下表の通りです。必ず守って安全に作業を行ってください。

勾　配	最大作業能力（ｋｇ）
平坦地	850
１５°以下の下り坂	600
１５°以下の登り坂	600

■バランス

⚠危険
- ●荷動きしないようにしっかりとロープ等で積荷を固定してください。これを怠ると、車両重心が変わりバランスをくずし転倒事故を起こしたり、積荷が落下したりして大変危険です。
- ●荷物を高く積まないでください。重心が高くなり、積荷のバランスが悪くなり、落下等事故の原因となり大変危険です。

⚠注意
- ●やむを得ず、積荷が高くなる場合は、荷くずれしないように確実にロープ等で固定し、ゆっくりと低速で運搬してください。

安全に効率よく作業するため、バランスよく積載してください。

重要
- ●積荷の重心が荷台中心部になるよう積載してください。
- ●荷物を積んで走行するときには、積載量に応じてサイドクラッチレバーの操作荷重が変わります。十分注意して運搬してください。

油圧操作

■ダンプ操作

ダンプ操作につきましては、24・25ページの「油圧クラッチレバー」・「油圧操作レバー」の項目をご参照ください。

点検・整備

増し締め…作業前には、各部のボルト・ナット等の緩みがないか確認し、緩み箇所は締めなおしてください。

⚠警告 ●給油及び点検をするときは安全を確認して行ってください。
①車両を平坦な広い場所に置く。
②エンジンを止める。
③駐車ブレーキをかける。
④荷台をリフトもしくはダンプさせたときは、十分強度のある木材などで落下防止をする。
※ 安全を確認せずに点検整備をすると、思わぬ傷害事故を引き起こすことがあります。

〈定期点検整備箇所一覧表〉
本機を安全に使用するために、また事故を未然に防ぐために必ず点検・整備を行ってください。
○点検・調整　◎補給　●交換

点検箇所		項目	点検時期（目安）				参照ページ
			始業前	50h毎	100h毎	200h毎	
本体・走行部	ギヤボックス	油量		◎		●	38
	ブレーキシュー	磨耗		○		●	45・46
	Vベルト	伸び・亀裂	○				44
	サイドクラッチレバー	利き（調整）	○				44〜46
	ブレーキレバー	利き（調整）	○				44〜46
	クローラ	伸び・亀裂	○				48
	転輪（各ローラ）	グリース			◎		37
	各支点部	油・グリース	○				—
	操作系ロッド支点部	油・グリース	○				—
	バッテリ	液量	○				42・43
油圧部	油圧ポンプ	油量・油質			◎	●	39
	油圧ホース	亀裂	○				—
	油圧シリンダ	油漏れ	○				—
	摺動部	グリース	○				—
エンジン部	エンジンオイル	油量・汚れ	○		●		40
	エアクリーナ	汚れ		○		●	—
	点火プラグ	汚れ・磨耗		○			—
	燃料フィルタ	水だまり・目詰まり			○		40
エンジン部関係詳細については「エンジン取扱説明書」を御参照ください。							

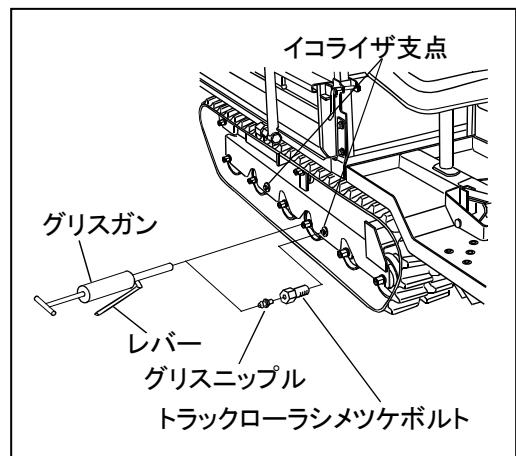
●転輪のグリスアップは、湿田等で使用した後には必ず給脂してください。
●年に１回はお求めのお買いあげ先にて点検整備を受けてください。

■給油

〈給油箇所一覧表〉

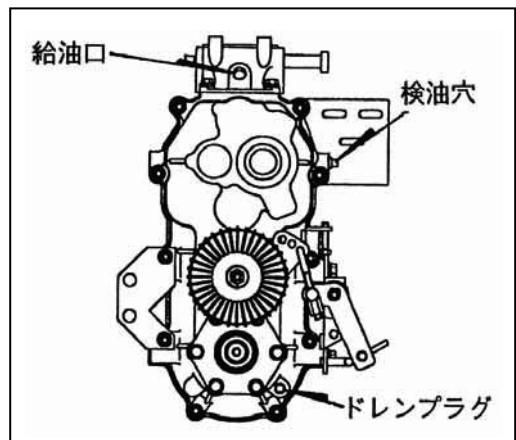
<table>
<tr><th colspan="3">給油箇所</th><th>油の種類</th><th>給油量</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="5">走行部</td><td colspan="2">ギヤボックス</td><td>GL4-80W-90(JOMO)</td><td>4.4ﾘｯﾄﾙ</td><td>38</td></tr>
<tr><td colspan="2">トラックローラ</td><td rowspan="4">エトライトNo.1(協同油脂)</td><td rowspan="4">適量</td><td rowspan="4">37</td></tr>
<tr><td colspan="2">アイドルローラ</td></tr>
<tr><td colspan="2">アップローラ</td></tr>
<tr><td colspan="2">イコライザ支点</td></tr>
<tr><td rowspan="3">エンジン部他</td><td colspan="2">注油指示部</td><td>ギヤオイルまたは
グリース;エクセライトNo.2(協同油脂)</td><td>適量</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">エンジンオイル</td><td>ガソリンエンジンオイル
GP-S 10W-30(JOMO)</td><td>1.0ﾘｯﾄﾙ</td><td>40</td></tr>
<tr><td colspan="2">燃料</td><td>自動車用無鉛レギュラーガソリン</td><td>5.3ﾘｯﾄﾙ</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="2">油圧部</td><td>油圧ポンプ</td><td>XG850DE</td><td>ハイドラックスES32(JOMO)</td><td>1.8ﾘｯﾄﾙ</td><td>39</td></tr>
<tr><td colspan="2">各支点・摺動部</td><td>ギヤオイルまたは
グリース;エクセライトNo.2(協同油脂)</td><td>適量</td><td>—</td></tr>
</table>

重要
- ●機体にとって潤滑油は、人の血液にも相当する大切なものです。給油をおそろかにすると、機械が円滑に動作しないばかりか、故障の原因となり、機械の寿命を短くします。常に点検し、早めに補給、または交換してください。
- ●給油作業は、ゴミ・水等が入らないよう十分注意して行ってください。

1．転輪の注油箇所

●トラックローラ、アイドルローラ、アップローラ、イコライザ支点

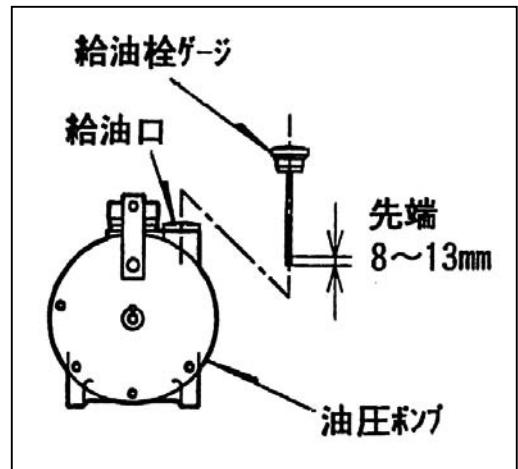
各転輪中央部のグリスニップルから市販のグリスガンで、グリースを注入してください。

イコライザ支点の注油は、同梱のトラックローラシメツケボルト・グリスニップルに組換えてから行なってください。

重要 ●各転輪には、出荷時にグリースを十分に注入しています。グリースを入れ過ぎると転輪が回転しなくなる恐れがあります。
グリースは入れ過ぎないでください。

●グリース注入量の目安は、手動式グリスガンで、１～２回レバー操作し注入します。レバーが重くなるか、転輪内部からグリースがあふれ出たら、直ぐに注入を停止してください。エアー式グリスガンでは、入れ過ぎにより、転輪が回転しなくなる恐れがありますので使用しないでください。

２．ギヤボックスオイルの給油・交換

●給油

機体を水平にして給油します。
給油口のキャップを外し、ギヤボックス側面にある検油ボルトを外し、検油穴からオイルが流れ出すまで給油してください。給油が終了したら、検油ボルトを元のように締め込み、給油口のキャップを取り付けてください。

●交換

(1)　機体を水平にして作業を始めます。

(2)　給油口のキャップとギヤボックス下部のドレンプラグを外し、オイルを廃油受皿に排出します。

(3)　オイルをすべて出しきったら、オイル排出口、およびドレンプラグの油分を完全に抜き取り、ドレンプラグにシールテープを巻き、元のようにしっかりと締め込みます。

(4)　検油ボルトを外し、検油穴からオイルが流れ出すまで給油します。

(5)　給油が終了したら、検油ボルトを元のように締め込み、給油口のキャップを取り付けてください。

 ●廃油は廃油受皿等に取り、たれ流したりしないでください。公害のもととなります。
●廃油受皿に排出したオイル内に鉄粉等が混入している場合は、ギヤの磨耗など、ギヤボックス破損の前兆であり、ギヤボックスの分解チェックを要します。お買あげ先にご相談ください。
●ギヤボックスのオイルは、路面状態など走行条件により給油口からにじみ出たり、キャップのエア抜き穴から出る場合がありますので、頻繁に点検し、補給してください。

３．油圧ポンプオイルの給油

(1)　機体を水平にし、荷台をいっぱいまで下降させた状態で、油量の点検をします。

(2)　エンジンカバーを開け、油圧ポンプの給油栓ゲージを外し、先端をウエス等できれいに拭き、改めて締め込んでから再び外し、ゲージ先端８～13㎜の位置までオイルが入っているか点検します。

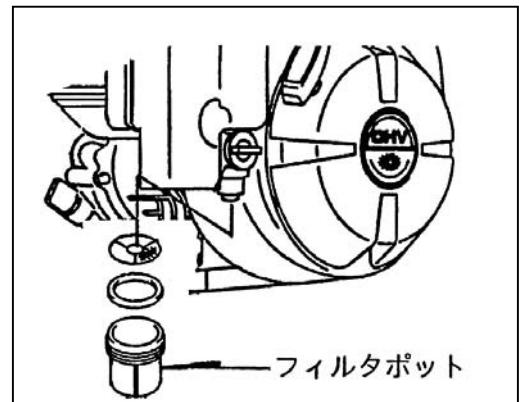
(3)　オイル量が少なくなっている場合は、給油口より給油してください。

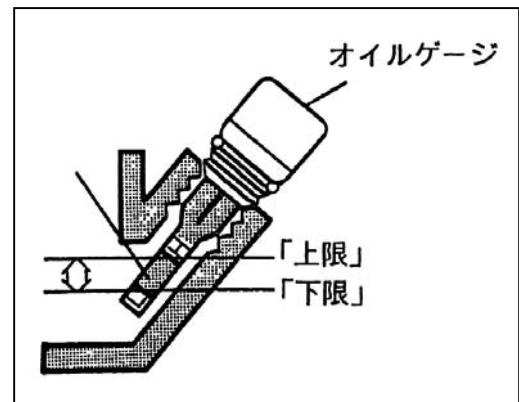
(4)　給油が終了したら、給油栓ゲージを元のように締め込み、エンジンカバーを閉じてください。

※ もし、オイルを交換する場合は、油圧ポンプ下部のドレンプラグからオイルを排出することが出来ます。

重要
●荷台をリフトおよびダンプ上昇させた状態と、下降させた状態では、シリンダ、および油圧ポンプ内の油量が異なります。油量は必ず荷台いっぱいまで下降させた状態で点検してください。
●油量が多いとブリーザキャップのエア抜き穴よりオイルが吹き出る場合があります。
●オイルの早期減少は異常ですから、お買いあげ先で点検整備を受けてください。

■点検と清掃

⚠危険
●火気厳禁
給油時は、エンジンを必ず停止し、過熱部が冷えてから給油してください。
●燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。引火爆発・火災の原因になります。

(1)　燃料……………………………自動車用無鉛レギュラーガソリン

●燃料タンク内に水・ゴミ等が入らないよう注意してください。
●燃料キャップが確実に締まっているか確認してください。

(2)　フィルタポットの清掃と交換

●燃料中に含まれる水・ゴミ等がフィルタポット内に沈殿していないか点検します。

●水・ゴミ等がたまっている場合は、燃料コックを閉じてフィルタポットを外し、フィルタエレメント及びフィルタポット内部をガソリン車の場合は、ガソリンで、ディーゼル車の場合は、軽油で洗浄してください。

●締付けの際は、燃料もれのないよう十分注意してください。

(3)　エンジンオイル

●機体を水平にして、オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、改めて差し込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。

●「下限」以下の場合は、「上限」まで補給してください。

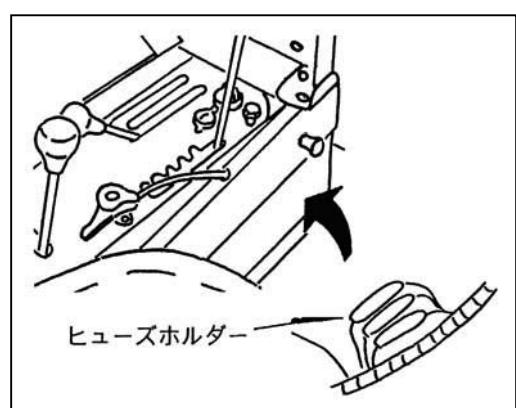
重要　**●エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。**

※オイル交換・エアクリーナの清掃等エンジンの保守点検につきましては、別冊で添付しております「エンジン取扱説明書」をお読みください。

電気系統の点検と清掃

■電気配線の点検と清掃

⚠注意
●配線の端子や接続部の緩みおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり、火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理をしてください。
●バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部の可燃物・ゴミなどは取除いてください。これを怠ると火災の原因となります。
●安心して運転できるよう、１年に１回お買いあげ先での定期点検を受けてください。

下記の項目につき、定期的に点検してください。

(1)　配線の損傷がないこと。配線被覆が破れているときは、絶縁テープを巻き、補修してください。

(2)　配線のクランプの緩みがないこと。配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。

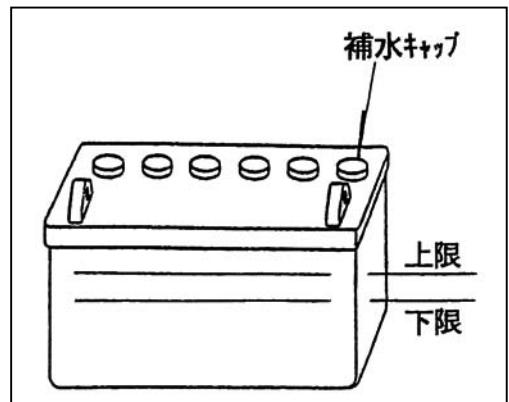
(3)　ターミナル、カプラの接続部の緩みがないこと。

(4)　各スイッチが確実に作動すること。

重要 ●バッテリ、エンジンのまわりの電気配線、電装部品等に圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因となります。

■ヒューズの取扱い

ヒューズは、ヒューズホルダーの中に入っています。ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。大容量のヒューズをつけると焼損の原因となります。

重要 ●ヒューズが切れた場合には、切れた原因を調べ、修理後同容量のヒューズと交換してください。絶対に針金等で代用しなでください。

■バッテリの点検と取扱い

⚠警告
●ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよい所で行ってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。
●バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（ＬＯＷＥＲ ＬＥＶＥＬ）以下になったまま使用を続けたり充電を行うと、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。
●バッテリ液（電解液）は希硫酸で劇物です。バッテリ液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし、目・皮膚・服についてときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。
●ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

(1)　バッテリの液量点検

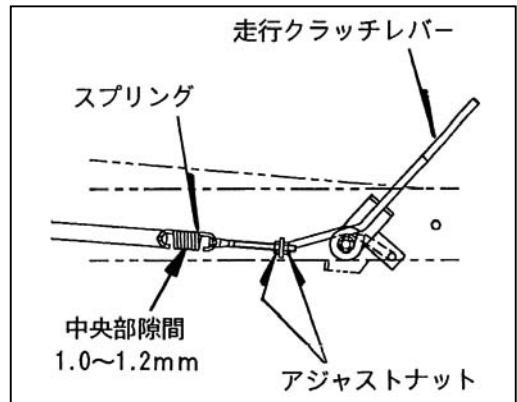
●バッテリ液がバッテリケース液面レベルの上限線から下限線の間にあるか、バッテリが水平になる姿勢で確認してください。
●不足している場合はキャップを外し、上限まで蒸留水を補充してください。

(2)　バッテリの取扱い

●気温が低下すると、バッテリの性能も低下します。冬季は特にバッテリの管理に注意してください。
●バッテリは使用しなくても自己放電しますから補充電を行ってください。
　夏季……１ヵ月毎　　　　冬季……２ヵ月毎
●本機を長期格納する場合は、バッテリを取り外し,日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。どうしても本機に取付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（ ⊖側 ）を外してください。
●新品のバッテリと交換する場合には、必ず指定した型式のバッテリを使用してください。

〈 指定バッテリ型式 〉
　日本電池㈱　３４Ａ１９Ｒ、または
　㈱ユアサコーポレーション　３４Ａ１９Ｒ（Ｈ－ＭＦ）

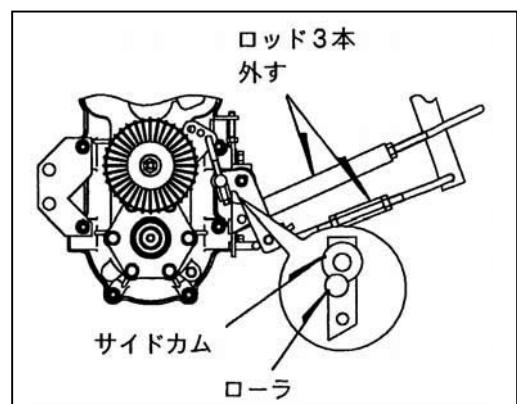
- バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線等を傷めることがあります。
- バッテリの急速充電はバッテリの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。
- 充電はバッテリの ⊕ を充電器の ⊕ に、⊖ を充電器の ⊖ にそれぞれ接続して普通の充電方法で行ってください。
- バッテリを外し、再度取付けるときは、バッテリの ⊕ ・ ⊖ のコードを元通りに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。
- バッテリコード（端子）を取外すときは、⊖ コードを先に外します。バッテリコードを取付けるときは、⊕ コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花が飛んだりして危険です。

各部の調整

> **⚠警告** ●各部の点検、調整を行なう場合は、必ずエンジンを停止させ、平坦地で作業をしてください。

■走行クラッチレバーの調整

走行クラッチレバーを「低」または「高」位置にしても、ベルトがスリップして動力の伝動が不十分な時は、下記の要領にて調整してください。

走行クラッチレバーを「低」および「高」位置にした状態で、スプリング中央部の隙間寸法が1.0～1.2㎜になるようにそれぞれアジャストナットにて調整してください。

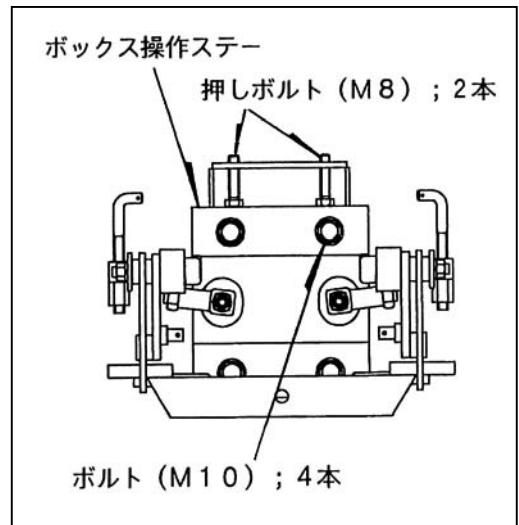
調整後は、確実にアジャストナットを締め込んでください。

重要 ●走行クラッチレバーの調整が不十分な場合には、走行クラッチレバーを「低」または「高」位置にしてもベルトがスリップして、動力の伝動が悪くなり、走行できなくなったり、坂道で暴走する恐れがあります。作業前には必ずベルトをチェックしてください。

■サイドクラッチレバー、およびブレーキレバーの調整

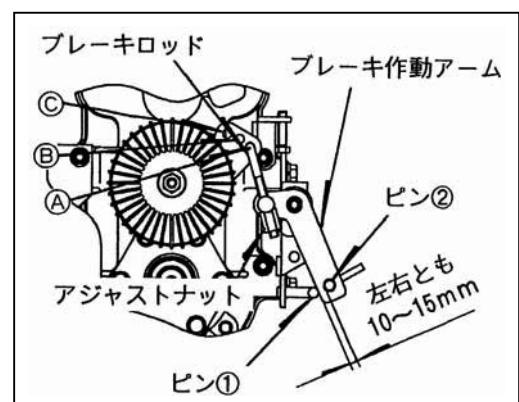
サイドクラッチレバーの遊び（ガタ）や作動量が大きくなり、サイドクラッチレバーを引いても旋回しにくくなった場合、また、ブレーキレバーの作動量が大きくなり、ブレーキ、および駐車ブレーキの効きが弱くなった場合には、次の要領、手順にて調整してください。

１．確認

(1) 先ず、ギヤボックス内のギヤをうまく噛みあった状態にする為、サイドクラッチレバーを操作しないで、２～３ｍほど前・後してから停止してください。

(2) 次に、ギヤボックス操作部を点検する為、レバーからギヤボックスにつながっている、ロッド３本を外してください。

(3) サイドカムが作動していない状態（サイドクラッチレバーを操作していない状態）で、左右のサイドカムとローラとの間に隙間が無いか確認してください。
（サイドカムを手で持って、前後に動かしガタが無いか確認。）

(4) サイドカムとローラの間に隙間（ガタ）が無ければ、「３．サイドクラッチブレーキの調整」へ、隙間（ガタ）があった場合は、「２．ギヤボックス操作部の調整」へ移行してください。

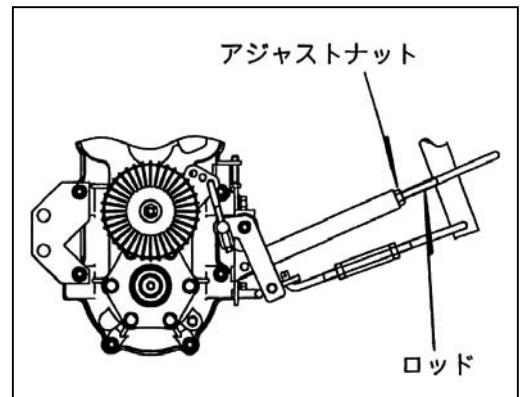
２．ギヤボックス操作部の調整

(1) ボックス操作ステーを固定している４本のボルト（M10）を、ボックス操作ステーが少し動く程度にゆるめます。

(2) ボックス操作ステー固定用の２本の押しボルト（M８）をゆるめて（ねじ込んで）おきます。

(3) サイドカムとローラの隙間が０になるように、ボックス操作ステーを押し上げていきます。
（プラスチックハンマー等でボックス操作ステー下部を軽くたたきながら押し上げると作業がし易いです。）

(4) ボックス操作ステー固定用の２本の押しボルト（M８）を、ボックス操作ステーに軽く押し当て固定します。

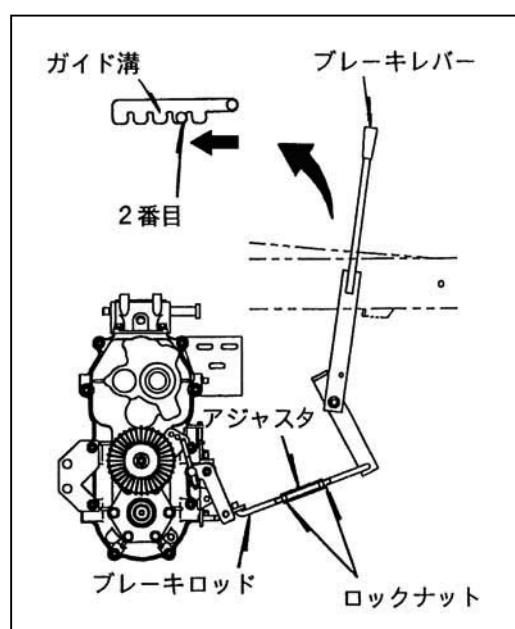
(5) ボックス操作ステーを固定している４本のボルト（M10）を確実に締付けてください。
［ 締付トルク：51.0～65.7N･m(520～670kgf･cm)厳守の事 ］

３．サイドクラッチブレーキの調整

(1) ブレーキ作動アームを約５kgの力で引いた時、図中①と②のピンの間隔が左右とも10～15㎜になるようにブレーキロッドのアジャストナットを締め込んで調整してください。

(2) 「１．確認」の項目(2)で外したサイドクラッチレバー、およびブレーキレバーからギヤボックスにつながっているロッド３本を元のように取付けてください。

●アジャストナットをいっぱいまで締め込んでも調整が出来なくなった場合は、ブレーキロッドの取付位置を Ⓐ からⒷへ、もしくは Ⓑ から Ⓒ へと、順に変更してください。アジャストナットの調整がさらに出来るようになります。

●ブレーキロッドを Ⓒ 位置に取付けても、アジャストナットの調整が出来なくなった場合は、ブレーキシューの交換が必要です。

４．サイドクラッチレバーの遊び（ガタ）調整

(1) 左右のサイドクラッチレバーを軽く動かし、先端部の遊び(ガタ)が20㎜以上ある場合は、アジャストナットにてサイドクラッチレバーの遊び（ガタ）が無くなる程度に、ロッドの張り調整をしてください。

(2) 調整後は、確実にアジャストナットを締め込んでください。

重要 ●アジャストナットにて必要以上にロッドを張りすぎて、サイドクラッチレバーを操作していない状態で、サイドカムが作動してしまわないよう注意してください。

５．ブレーキレバーの調整

(1) 駐車ブレーキをかけていない状態でブレーキロッドの遊び（ガタ）が無くなる程度にアジャスタにて調整してください。
（きちんと調整されていれば、レバーガイド溝の２番目の位置で駐車ブレーキが効くようになります。）

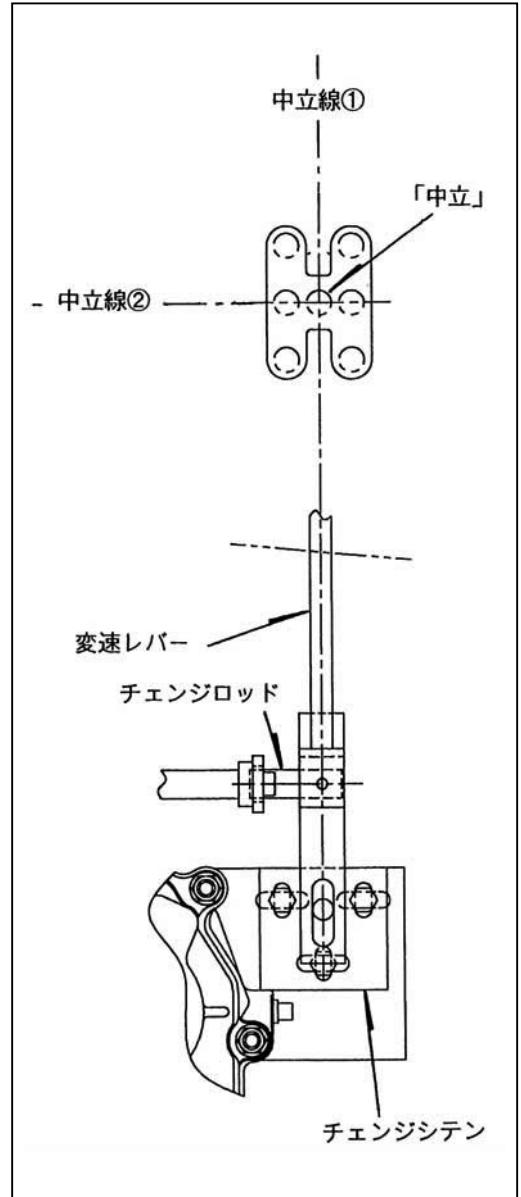
(2) 調整後は、確実にアジャスタのロックナットを締め込んでください。

■油圧クラッチレバーの調整

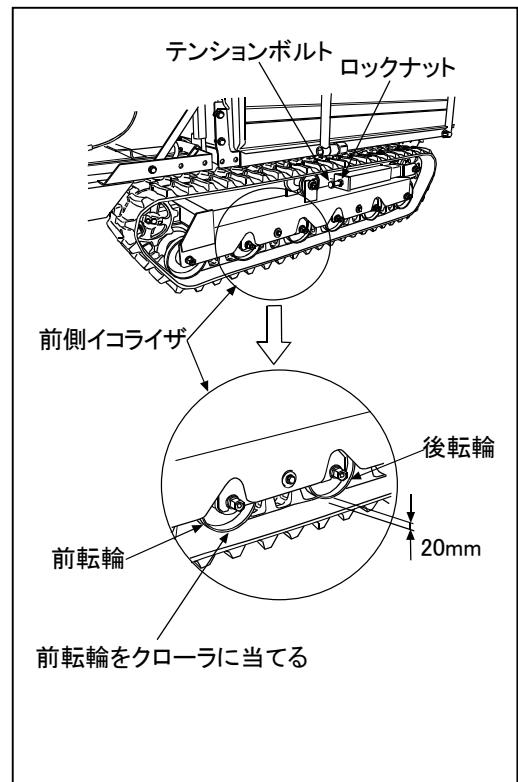
油圧操作レバーを操作しても、ベルトがスリップして動力の伝動が不十分な時は、油圧クラッチレバーをガイド溝１段ずつかけかえてベルトの張り増しをしてください。

■変速レバーの位置調整

変速レバー位置は出荷時によく調整されていますが、各部のへたりやゆがみの発生により、ガイド溝に対してズレが生じることがあります。そのまま使用しつづけるとギヤ抜けの原因にもなりますので、ズレが生じた場合は下記の要領にて調整してください。

(1)　運転席足もとのカバーをはずします。

(2)　左右方向の位置を調整します。
　変速レバーを「中立」位置とし、チェンジロッドを固定しているボルトをゆるめ、変速レバーを軽く左右に動かした時、中立線①を中心としたときの振れ幅が左右同じになるよう調整し、固定します。

(3)　前後方向の位置を調整します。
　変速レバーを「中立」位置とし、チェンジシテンを固定しているボルトをゆるめ、チェンジシテンを前後に移動させて調整します。この時、変速レバーを前後に動かし、中立線②を中心としたときの振れ幅が前後同じになるよう調整し、固定します。

(4)　変速レバーが各変速位置に入ることを確認してください。

(5)　もとのようにカバーを取付けてください。

■クローラの張り調整

クローラが初期伸びや磨耗の為にゆるんだ場合には、クローラの張り調整を行なってください。

クローラを地面から離した（車両を持ち上げた）状態で、前側イコライザの前転輪をクローラの内面に当て、後転輪とクローラの内面との距離が20㎜になるようにテンションボルトにて調整してください。調整後は、確実にロックナットを締め込んでください。

手入れと格納

⚠警告 ●作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、次の要領で行ってください。

(1)　車両はきれいに清掃しておきましょう。特に圃場での作業や悪路走行後は、きれいに洗車してください。
(2)　燃料タンク内防錆のため、燃料は満タンにしておいてください。
(3)　荷台は必ず降ろしてください。
(4)　格納はできる限り屋内にしてください。
(5)　走行クラッチレバー、および油圧クラッチレバーを「切」位置にしておいてください。
(6)　駐車ブレーキを必ずかけてください。
(7)　厳寒時はバッテリをはずし、暖かい室内などに保管すると始動時に効果があります。

●洗車の際は、エンジン・樹脂部品・電装品、およびマーク貼付部などには高圧水をかけないでください。高圧水をかけると、故障の原因となったり、マークのはがれ、部品の変形を起こしたりします。
●漏電の原因になるため、キースイッチのキーは抜き、キャップをしてください。

■長期格納

長い間使用しない場合は、きれいに清掃し、次の要領で格納してください。

(1)　車両はきれいに清掃しておきましょう。
(2)　不具合箇所は整備してください。
(3)　エンジンオイルを新しいオイルと交換し、５分程エンジンをアイドリング回転にて運転し、各部にオイルをゆきわたらせます。

(4)　各部の給油を必ず行ってください。
(5)　荷台は必ず降ろしてください。
(6)　各部のボルト・ナットの緩みを点検し、緩んでいれば締めてください。
(7)　格納場所は、周囲に紙など燃えやすいものがない、雨のかからない乾燥した場所を選んでください。
(8)　走行クラッチレバー、および油圧クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキはかけないで歯止め（車止め）をしておいてください。
(9)　エンジン部は、燃料タンク・キャブレター内のガソリンを完全に抜いて格納してください。
※「エンジン取扱説明書」参照
(10)　バッテリは、はずして補充電を行い、液面を正しく調整して日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。どうしても取付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（ ⊖ 側）をはずしておいてください。

●バッテリをはずさないときは、最低限バッテリの ⊖ 端子をはずしてください。
ねずみが配線をかじり、ショートして火災が発生することがあります。
●キースイッチのキーは必ず抜いておいてください。

■長期格納後の使用

長期格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

●始業点検を確実に行ってください。
●エンジンの寿命・性能を保つため、エンジン始動後はアイドリング回転で５分程、運転してください。

不調時の対応のしかた

■エンジン関係

故　障　状　況	原　　　　　因	処　　　　　置	参照ﾍﾟｰｼﾞ
キースイッチを回してもセルモータが回らない	●バッテリが弱い	●バッテリの充電または交換	42・43
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●原因を取り除いてからヒューズの交換	41
	●キースイッチの故障	●キースイッチの交換	※
	●セルモータの故障	●修理または交換	※
	●リミットスイッチの作動不良または故障	●リミットスイッチの調整または交換	※
	●走行クラッチレバーが入っている	●走行クラッチレバーを「切」位置にする	23
セルモータの回転があがらない	●バッテリが弱い	●バッテリの充電または交換	42・43
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
セルモータは回るがエンジンがかからない	●ﾁｮｰｸﾚﾊﾞｰを操作していない	●チョークレバーを引く	22・27・28
	●燃料が供給されない	●燃料コックを開ける	40
	●燃料フィルタのつまり	●フィルタの掃除または交換	40
	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	ｴﾝｼﾞﾝ取説
	●気化器のつまり	●気化器の清掃または交換	※
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理	※
	●緊急停止スイッチが「停止」位置になっている	●緊急停止スイッチを「運転」位置にする	21・28
エンジン回転が不規則である	●燃料フィルタのつまり	●フィルタの掃除または交換	40
	●ホース系の燃料もれまたはエアー混入	●クランプ締付けまたはホース交換	※
	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	ｴﾝｼﾞﾝ取説

不調時の対応のしかた

故　障　状　況	原　　　　　　　因	処　　　　　　　置	参照ﾍﾟｰｼﾞ
エンジン回転が不規則である	●気化器のつまり	●サービス工場で清掃又は交換	※
エンジンを低速にすると停止する	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	ｴﾝｼﾞﾝ取説
	●気化器のつまりおよび調整不良	●気化器の清掃または交換	※
	●スロットル調整不良	●スロットルの調整	※
運転中に突然、エンジンが停止した	●燃料不足	●燃料補給	37・39 ｴﾝｼﾞﾝ取説
	●エンジンオイル不足	●エンジンオイルの補給	40 ｴﾝｼﾞﾝ取説
	●オイル不足または潤滑不良によるエンジン焼付	●エンジンの修理または交換	※
	●プラグキャップの緩み	●プラグキャップを正しく取付ける	ｴﾝｼﾞﾝ取説
マフラから異常な煙がでる	●エアクリーナのつまり	●エレメントの清掃または交換	ｴﾝｼﾞﾝ取説
	●エンジンオイル量が多い	●点検し適正量にする	ｴﾝｼﾞﾝ取説
	●気化器の調整不良	●気化器の調整	※
	●燃料がよくない	●正規の燃料に入れ換える	—
エンジン出力不足	●積載量が多すぎる	●積載量を減らす	34・35
	●気化器の調整不良	●気化器の調整	※
	●点火プラグ不良	●点火プラグの清掃または交換	ｴﾝｼﾞﾝ取説
	●エンジンオイル量の不適	●エンジンオイル量を点検し適正量にする	40 ｴﾝｼﾞﾝ取説
	●冷却空気取入口やシリンダフィン部にゴミが付いている	●清掃する	ｴﾝｼﾞﾝ取説
	●エアクリーナのつまり	●エレメントの清掃または交換	ｴﾝｼﾞﾝ取説
	●エンジンオイルが汚れている	●エンジンオイルの交換	ｴﾝｼﾞﾝ取説

故　障　状　況	原　　　　　因	処　　　　　置	参照ﾍﾟｰｼﾞ
エンジン出力不足	●タンクキャップの空気穴のつまり	●空気穴の清掃	—
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理または交換	※
	●エンジンの過熱	●小休止	—
		●吸気部の清掃	ｴﾝｼﾞﾝ取説

■操作関係

故　障　状　況	原　　　　　因	処　　　　　置	参照ﾍﾟｰｼﾞ
走行クラッチレバーを「切」位置にしても止まらない	●走行ベルトのつき回り	●走行クラッチレバーの調整	44
		●ベルトストッパの調整	※
走行クラッチレバーを「低」または「高」にしても発進しない	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチレバーの調整	44
	●走行ベルトの磨耗	●走行ベルトの交換	※
	●駐車ブレーキのロック	●ブレーキ解除または調整	22・44～46
変速レバーが各変速位置に入らない	●変速レバーの調整不良	●変速レバーの調整	47
	●変速レバーの変形	●変速レバーの交換	※

■油圧関係

故　障　状　況	原　　　　　因	処　　　　　置	参照ﾍﾟｰｼﾞ
油圧操作レバーを操作しても荷台が下降、および上昇しない	●油圧ポンプ駆動ベルトのスリップ	●油圧クラッチレバーの調整	47
		●油圧ポンプ駆動ベルトの交換	※
	●油圧ポンプオイルの不足	●油圧ポンプオイルの給油	39
	●積み過ぎ	●積載量を減らす	34・35
能力がでない	●油圧ポンプオイルの減少・質の低下	●油圧ポンプオイルの給油	39
		●油圧ポンプオイルの交換	※

油圧関係

故　障　状　況	原　　　　　　因	処　　　　　　置	参照ﾍﾟｰｼﾞ
能力がでない	●シリンダ内にエアー混入	●エアー抜き	※
油もれがする	●配管結合部のゆるみ	●増し締め	―
	●シールの劣化・磨耗	●シールの交換	※
	●油圧ホースの亀裂	●油圧ホースの交換	※

■電装関係

故　障　状　況	原　　　　　　因	処　　　　　　置	参照ﾍﾟｰｼﾞ
バッテリが充電されない	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●原因を取り除いてからヒューズの交換	41
	●レギュレータ不良	●レギュレータの交換	※
	●エンジン発電不良	●エンジンの修理	※
	●バッテリの機能不良	●端子の緩み、腐蝕、電解液の不足などを修正、またはバッテリの交換	41～43
ランプが暗い	●バッテリの性能低下	●バッテリの充電または交換	42・43
	●エンジンの発電不良	●レギュレータの交換	※
	●結線、接触不良	●アースおよびターミナルの点検清掃および増し締め	41～43
ランプが点灯しない	●電球の断線	●電球の交換	―
	●ヒューズ切れ	●原因を取り除いてからヒューズの交換	41
	●接触不良	●アースおよびターミナルの点検	41～43

重要　●参照ページの欄に※マークがある項目については、お買いあげ先へご相談ください。

農作業を安全におこなうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用するときの注意事項が「農作業安全基準」として定められています。ここに、本機を使用される方のために、特に重要な項目を「農作業安全基準」より抜粋しております。熟読の上、事故のない楽しい農作業のためにお役立てください。

一般共通事項

(1) 適用範囲

一般共通事項は､農業機械を使用して行う作業に従事する者が農作業の安全を確保するため注意すべき事項を示すものである。

(2) 就業条件

①安全作業の心得
農業機械を使用して行う作業（以下､「機械作業」という）に従事する者は機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図ると共に、補助作業者及び他人に危害を及ぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

②就業者の条件
次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。
●精神病者
●酒気をおびた者
●若年者
●未熟練者
●過労・病気・薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者。

激しい作業が続く場合には、特に健康に留意し、適当な休憩と睡眠をとること。
妊娠中の者は、振動を伴う機械作業に従事しないこと。

③特殊温湿度環境下の安全
暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間及び方法等を十分に検討すること。

(3) 子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には子供を近寄らせないよう注意すること。

(4)　安全のための機械管理

①日常の点検整備

農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行い、常に機械を安全な状態に保つこと。

②防護装置の点検

- ●機械作業に従事するものは、機械の操縦装置、制動装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。
- ●機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

③掲げ装置の落下の防止

作業機を上げた位置で点検調整等を行う場合には、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の装置を講じること。

④整備工具の管理

点検整備に必要な工具類を適正に管理し、正しく利用すること。

(5)　火災・爆発の防止

①引火・爆発物の取り扱い

引火または、爆発の恐れのある物質の貯蔵・補給等にあたってはその取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

②火災予防の措置

火災の恐れがある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等火災予防の措置を講じること。

(6)　服装および保護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装および保護具を用い、危険のないよう作業に従事すること。

①頭の傷害防止の措置

機械からの堕落及び、落下物の恐れの大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

②巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機若しくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髪、手拭き等が巻き込まれないように適正な帽子および、作業衣等を使用すること。

③足の傷害及びスリップ防止の措置
機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等の恐れのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

④粉じん及び有害ガスに対する措置
多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあっては､粉じん及び有害ガスによる危害防止のための適正な保護具を使用すること。

⑤農薬に対する措置
防除作業においては、呼吸器、目、皮膚等からの農薬による障害防止のために適正な保護具（保護衣を含む）を使用すること。

⑥激しい騒音に対する措置
激しい騒音の伴う作業にあっては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

⑦保護具の取り扱い
安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

移動機械共通事項

(1)　適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業するトラクターその他の移動機械を使用して行う作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

(2)　作業前の注意事項

①機械の点検整備
- ●機械の点検整備を十分行い、その使用にあたっては、常に安全を確認すること。
- ●機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく平坦である等、安全な場所でかつ安全な方法で確実に行うこと。特に、屋内で内焼機関を運転しながら点検整備等を行う場合は、換気に注意すること。

②防護装置の保全
- ●機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。
- ●機械の点検整備等のために防護装置を取り外した場合は、必ず復元し、その機能を十分に発揮できるようにしておくこと。

③悪条件下における作業
土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法および装備の選択等に注意すること。

(3) 作業中の注意事項

①乗車等の禁止

●機械作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

②前方及び後方の安全確認

運転中または作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

③転倒落下の防止

●圃場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過等に際しては、機械の転倒を防ぐために、特に注意すること。

●機械の積み降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、十分注意して行うこと。

④傷害の防止

●動力伝動装置・回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。

●刃または鋭利な突起を有する機械で作業を行う場合は、傷害防止のために特に注意すること。

⑤道路走行の安全

●道路走行にあたっては、関係法規を守り、安全に運転すること。

●道路走行にあたっては、他の自動車走行の妨げとならないように留意すること。

●刃物または鋭利な突起物を有する機械を道路走行させる場合は、おおいをつけるかまたはこれを取り外す等、特に傷害防止のために注意すること。

●悪条件の道路での高速運転の禁止

凹凸のはげしい道路、曲折のはげしい道路等においては、高速で運転しないこと。

●坂道における安全確保

降坂時は、必ずエンジンブレーキを用いること。また、操向クラッチを使用しないこと。登坂時における発進では、前輪の浮上がりに注意すること。

⑥夜間における安全

夜間作業においては、とくに安全に注意し、的確な照明を行うこと。

夜間給油を行う場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

⑦作業中の点検調整等における安全措置

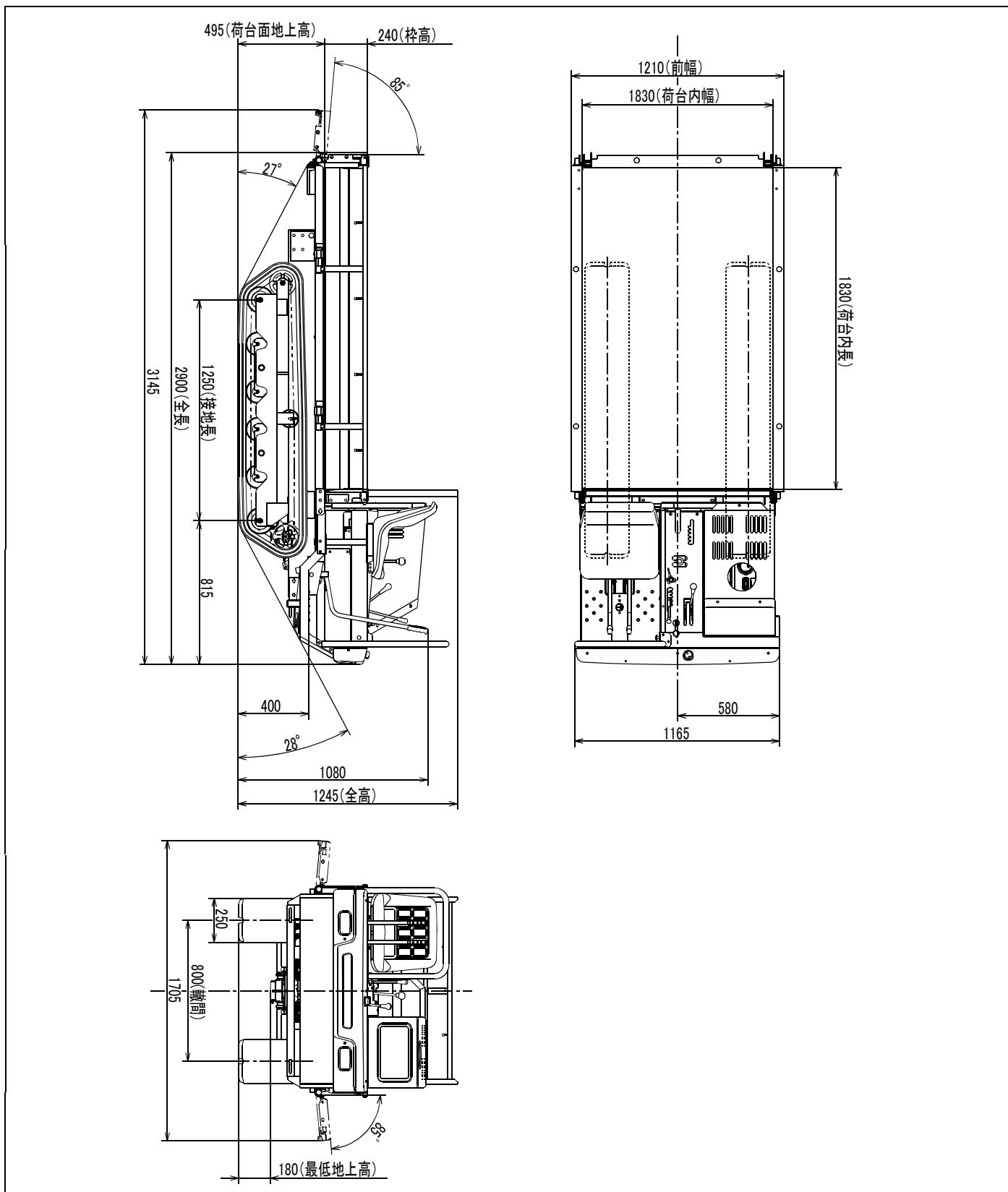
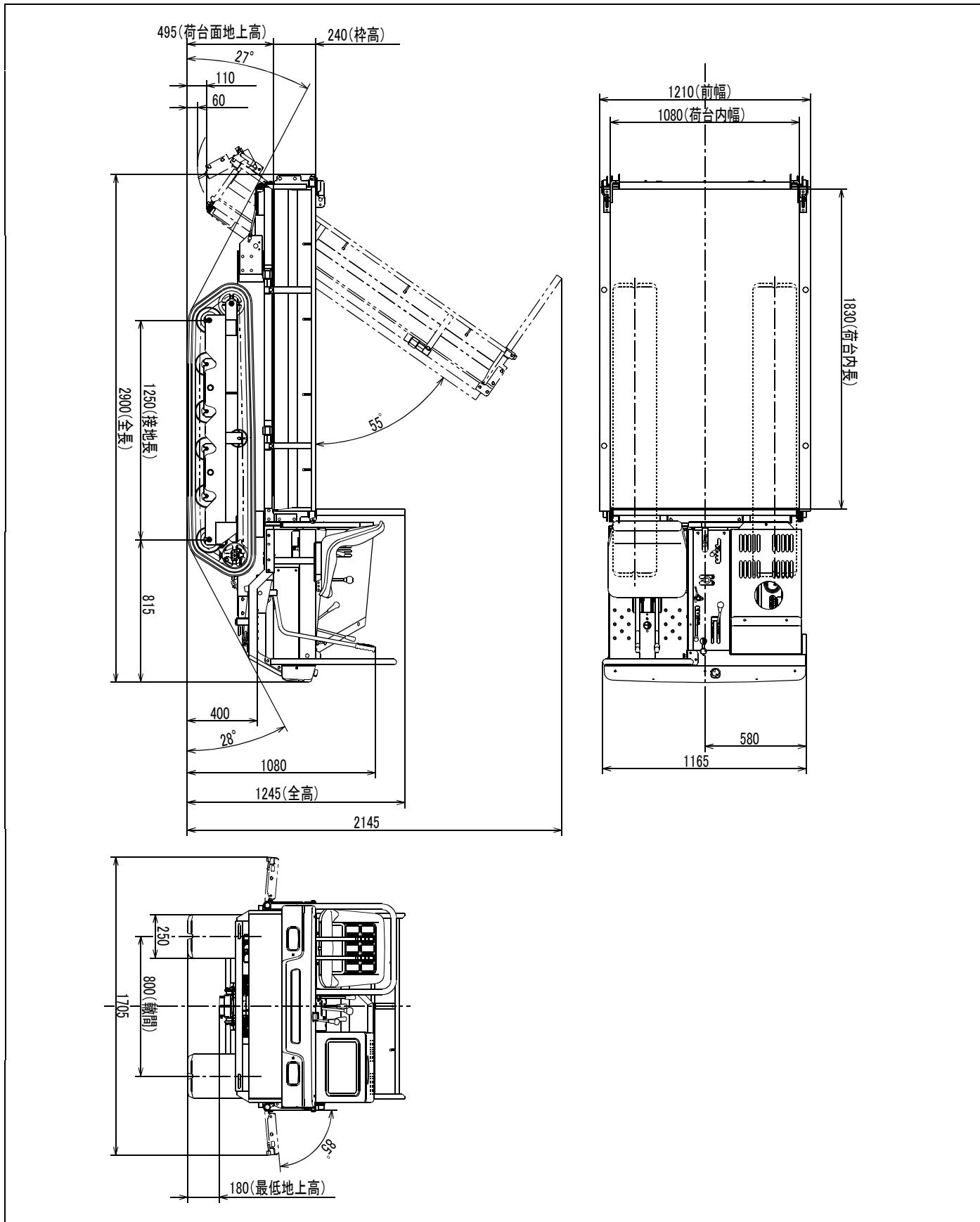
機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行うこと。

休憩等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下し、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、さらに車止めを施して、自然発車等の危険が生じないように注意すること。

(4)　終業後の注意事項

①終業後の点検整備
作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行うこと。

②作業機のとりはずし
作業機のとりはずしは、平坦な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行うこと。とくに夜間の作業機のとりはずしは、安全で適切な照明を用い、安全に留意して行うこと。

③機械の安全管理
作業終了後は、作業機をはずし、または降ろし、機械を安定した場所に置き、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。
また、危険と思われる機械は、格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な状態におくこと。

サービス資料

主要諸元

<table>
<tr><td colspan="4">名　　　称</td><td colspan="2">クローラ型運搬車</td></tr>
<tr><td colspan="4">型　　　式</td><td>ＸＧ８５０Ｅ</td><td>ＸＧ８５０ＤＥ</td></tr>
<tr><td colspan="4">最大作業能力（kg）</td><td colspan="2">８５０</td></tr>
<tr><td rowspan="4">車体</td><td colspan="3">質　量（kg）</td><td>５６０</td><td>６１５</td></tr>
<tr><td colspan="3">全　長（mm）</td><td colspan="2">２９００</td></tr>
<tr><td colspan="3">全　幅（mm）</td><td colspan="2">１２１０</td></tr>
<tr><td colspan="3">全　高（mm）</td><td colspan="2">１２４５</td></tr>
<tr><td colspan="4">荷台内寸（長×幅×枠高）（mm）</td><td colspan="2">１８３０×１０８０×２４０</td></tr>
<tr><td colspan="4">荷台面地上高　（mm）</td><td colspan="2">４９５</td></tr>
<tr><td rowspan="11">走行部</td><td colspan="3">走　行　形　式</td><td colspan="2">エンドレスゴムクローラ（前駆動）</td></tr>
<tr><td colspan="3">操　向　形　式</td><td colspan="2">サイドクラッチ（内拡ブレーキ）</td></tr>
<tr><td colspan="3">ブレーキ形式</td><td colspan="2">内拡式（サイドクラッチ兼用）</td></tr>
<tr><td colspan="3">クローラサイズ
幅(mm)×ﾋﾟｯﾁ(mm)×ﾘﾝｸ数</td><td colspan="2">２５０×７２×５０</td></tr>
<tr><td colspan="3">轍間距離（mm）</td><td colspan="2">８００</td></tr>
<tr><td colspan="3">接　地　長（mm）</td><td colspan="2">１２５０</td></tr>
<tr><td colspan="3">変速段数</td><td colspan="2">Ｆ－４，Ｒ－４（ダブルテンション）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">走行速
(km/h)</td><td rowspan="2">前進</td><td>１速</td><td colspan="2">低；１．５　高；２．８</td></tr>
<tr><td>２速</td><td colspan="2">低；３．９　高；７．２</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後進</td><td>１速</td><td colspan="2">低；１．３　高；２．４</td></tr>
<tr><td>２速</td><td colspan="2">低；３．７　高；６．８</td></tr>
<tr><td colspan="4">最低地上高（mm）</td><td colspan="2">１８０</td></tr>
<tr><td colspan="4">最小回転半径（mm）</td><td colspan="2">２１００</td></tr>
<tr><td rowspan="6">エンジン</td><td colspan="3">種類・型式</td><td colspan="2">空冷４サイクル傾斜型ＯＨＶガソリンエンジン
カワサキＦＥ２５０－ＳＸ</td></tr>
<tr><td colspan="3">定格(最大)出力(kW/mim^{-1})</td><td colspan="2">４．４(６．０)/１８００(２０００)</td></tr>
<tr><td colspan="3">最大トルク(N･m/mim^{-1})</td><td colspan="2">１６．５/１２５０</td></tr>
<tr><td colspan="3">燃料(ﾀﾝｸ容量)[ﾘｯﾄﾙ]</td><td colspan="2">無鉛ガソリン（５．３）</td></tr>
<tr><td colspan="3">始　動　装　置</td><td colspan="2">セル・リコイルスタータ</td></tr>
<tr><td colspan="3">発　電　装　置</td><td colspan="2">１２Ｖ－４Ａ（レギュレータ）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">作業部</td><td colspan="3">名　　　称</td><td></td><td>油圧ダンプ</td></tr>
<tr><td colspan="3">ダンプ角度　（度）</td><td></td><td>５５</td></tr>
<tr><td colspan="3">装　置　仕　様</td><td></td><td>複動油圧シリンダ</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">備　　　考</td><td>平荷台</td><td>油圧ダンプ</td></tr>
</table>

外観図　（XG850E）

495(荷台面地上高)
240(枠高)
85°
27°
3145
2900(全長)
1250(接地長)
815
400
28°
1080
1245(全高)
1210(前幅)
1830(荷台内幅)
1830(荷台内長)
580
1165
250
800(軌間)
1705
85°
180(最低地上高)

(XG850DE)

495(荷台面地上高)
240(枠高)
27°
110
60
1210(前幅)
1080(荷台内幅)
1830(荷台内長)
2900(全長)
1250(接地長)
815
55°
400
28°
1080
1245(全高)
2145
580
1165
250
800(軌間)
1705
85°
180(最低地上高)

配線図

キースイッチ
線色
E
B'
ST
BA
IG
切
入
始動
バッテリ
(12V-24AH)
カワサキFE250G-SX
スパークプラグ
BP5ESもしくは
BPR5ES
セルスタータ
レギュレータ
始動リレー
走行スイッチ
NO
キースイッチ
IG
ST
B
E
BAT
非常停止スイッチ
ライトスイッチ
ライト
12V-20W
バルブS25型(12V-20W/20W)
ヒューズ10A
ヒューズ20A
黒
白
緑
赤
黄
茶
青
橙
黒白
茶白

主な消耗部品

消耗部品のご注文の際は、部品番号をお確かめの上、お買いあげ先へご相談ください。

部品番号	部品名称	個数	使用箇所・備考
0375-512-011-	ｺｸﾞﾍﾞﾙﾄ(SC39HP3)	2	走行伝動部
0375-520-011-	ｺｸﾞﾍﾞﾙﾄ(SB40HP2)	1	油圧伝動部 (XG850DE に使用)
0453-455-011-	ﾊﾞｯﾃﾘ 34A(G)	1	電装部
0460-101-200-	ﾌﾞﾚｰｷｼｭｰ COMP	左右各１組 （2個で１組）	制動装置・旋回装置部併用
0376-352-011-	ｸﾛｰﾗ(250X50X72)	2	走行部
0450-505-016-	ﾋｭｰｽﾞ 10A	―	電装部
0621-430-011-	ﾋｭｰｽﾞｶﾝ(20A)	―	電装部
0437-711-201-1A	12V-20W/20W(S25)	2	ランプ内
――――	点火プラグ	1	NGK BP5ES もしくは BPR5ES

索　引

索　引

困ったり、わからないことがあれば

販売店
住所〒　　－
TEL　　－　　－
担当；

までご連絡ください。

型　　式	
車体番号	

※ご使用になる前にメモしておくと、万一、修理の依頼をされるときに役立ちます。

豊かさを創造し、未来へ挑戦する

株式会社アテックス

本　　　　社　愛媛県松山市衣山１丁目２－５　〒791-8524
ＴＥＬ(089)924-7161（代）　ＦＡＸ(089)925-0771
ＴＥＬ(089)924-7162（営業直通）
ホームページ　http://www.atexnet.co.jp/

東 北 営 業 所　岩手県紫波郡矢巾町広宮沢第11地割北川505-1　〒028-3601
ＴＥＬ(019)697-0220（代）　ＦＡＸ(019)697-0221

関　東　支　店　茨城県猿島郡五霞町元栗橋６６３３　〒306-0313
ＴＥＬ(0280)84-4231（代）　ＦＡＸ(0280)84-4233

中 部 営 業 所　岐阜県大垣市本今５丁目１２８　〒503-0931
ＴＥＬ(0584)89-8141（代）　ＦＡＸ(0584)89-8155

中 四 国 支 店　愛媛県松山市衣山１丁目２－５　〒791-8524
ＴＥＬ(089)924-7162　ＦＡＸ(089)925-0771

九 州 営 業 所　熊本県菊池郡菊陽町大字原水１２６２－１　〒869-1102
ＴＥＬ(096)292-3076（代）　ＦＡＸ(096)292-3423

部品センター　愛媛県松山市馬木町８９９－６　〒799-2655
ＴＥＬ(089)979-5910（代）　ＦＡＸ(089)979-5950

部品コード	0376-945-011-1A